満生家文書目録（一）

筑紫野市文化財調査報告書　第54集

1997

筑紫野市教育委員会

満生家文書目録(一)

筑紫野市文化財調査報告書　第54集

1997

筑紫野市教育委員会

序

このたび満生家文書の目録を刊行する運びとなりました。

満生家は旧山家村における最後の庄屋であり、また明治維新以降も引き続き保長、戸長を務めた家であります。従いまして同文書の主体をなしているのは、近世後期から近代初期にかけての山家村の行政全般に関わる史料であります。そのなかには、学校教育の黎明となった寺子屋や文人墨客の往来を伝える一群の史料も含まれております。

満生家文書は山家宿の歴史と文化を研究していく上で大きな意義を有していますが、その全貌はまだ明らかにされておらず、研究者間で断片的に知られているに過ぎません。

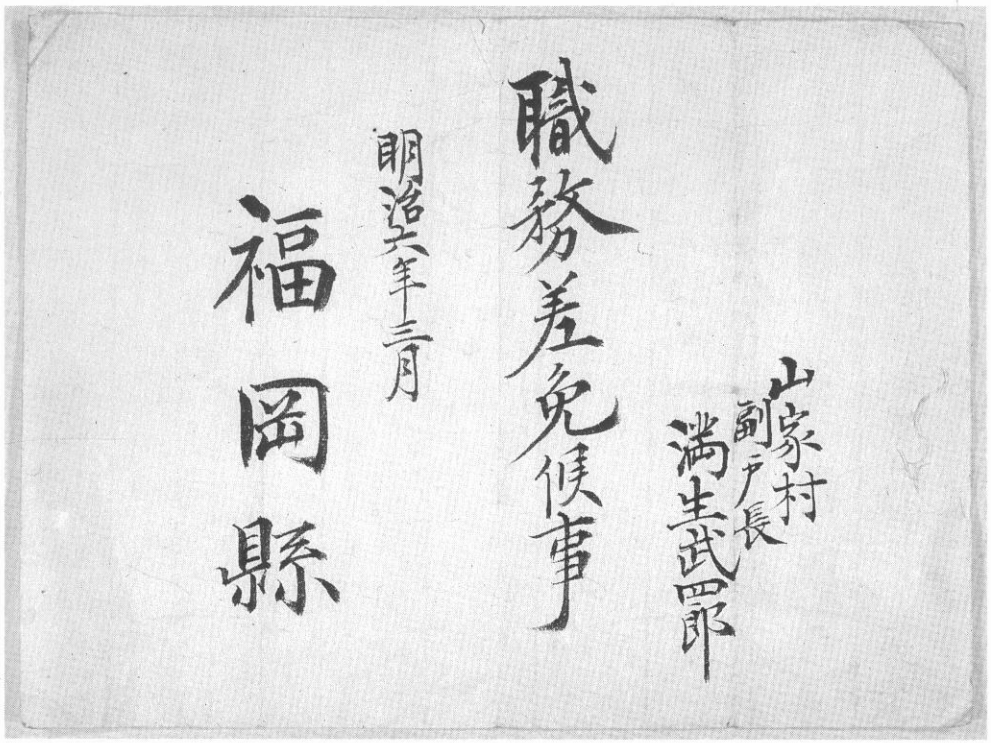
よって史料の保存を図り、あわせて地域史研究の向上に資するため詳細な目録を作成したわけであります。

目録の刊行にあたりまして、かくも貴重な史料を寄託いただきました満生熹憲氏をはじめ、調査と目録の作成にご尽力いただいた近藤典二氏、および関係各位のご協力に心から御礼申し上げます。

平成９年３月31日

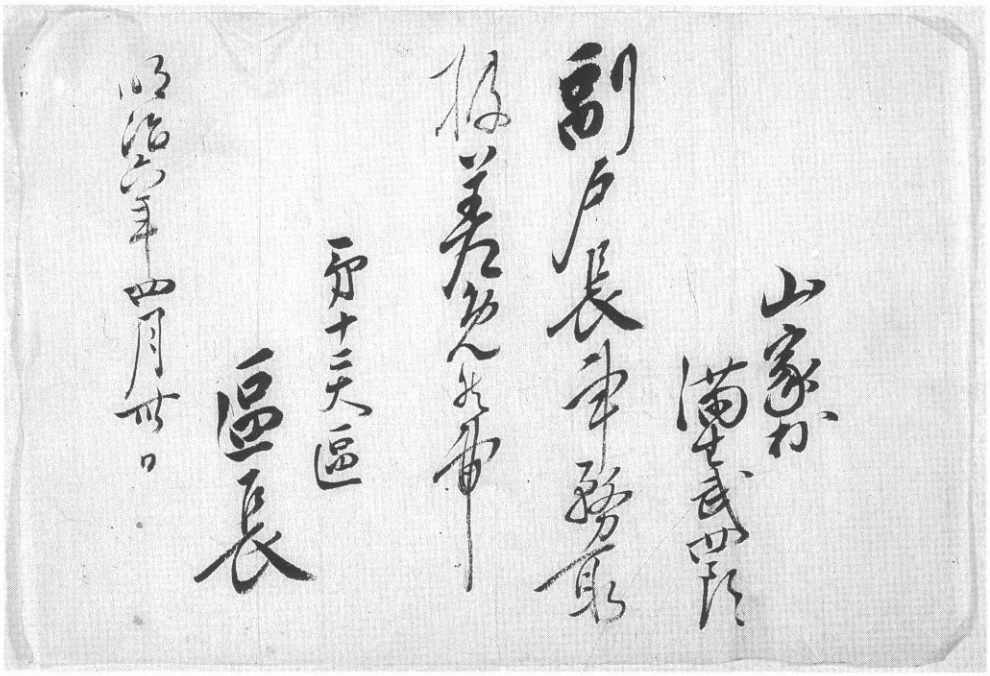
筑紫野市教育委員会
教育長　永　渕　正　敏

史料番号 529



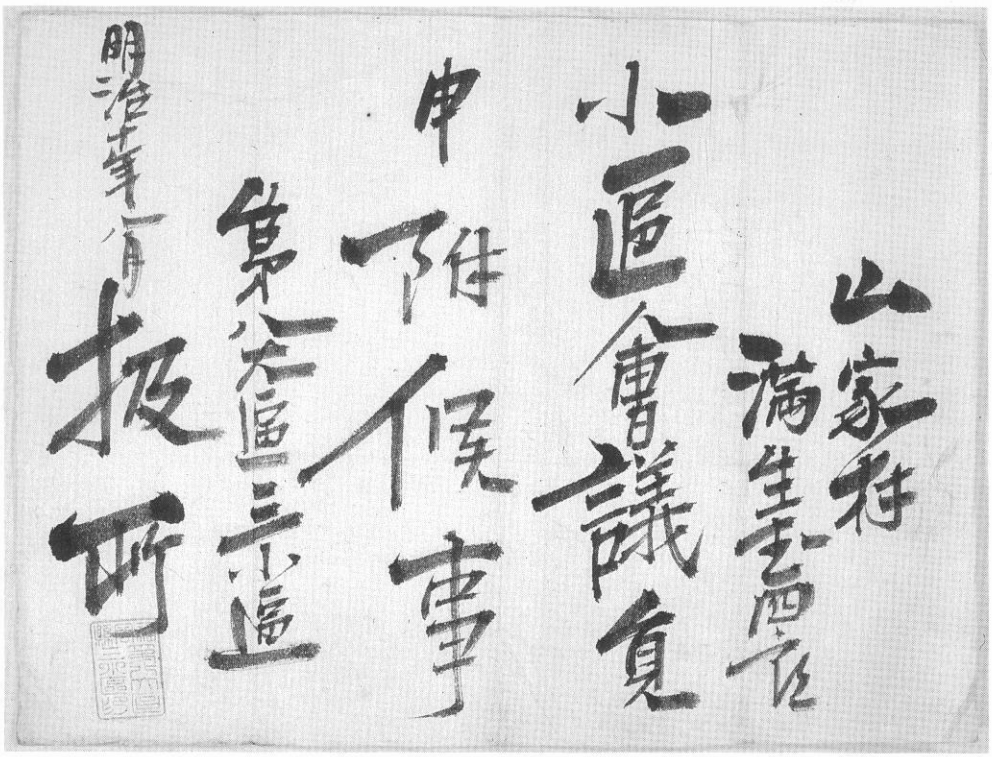
明治６年３月、大区小区制の施行により、従来の副戸長（旧庄屋）は一斉に免職になった。このとき御笠郡は第12大区となり、12の小区に分かれた。山家・天山・下見の３か村は（１ノ小区）で、満生武四郎は山家村保長（７名）の一人になった。

史料番号 530



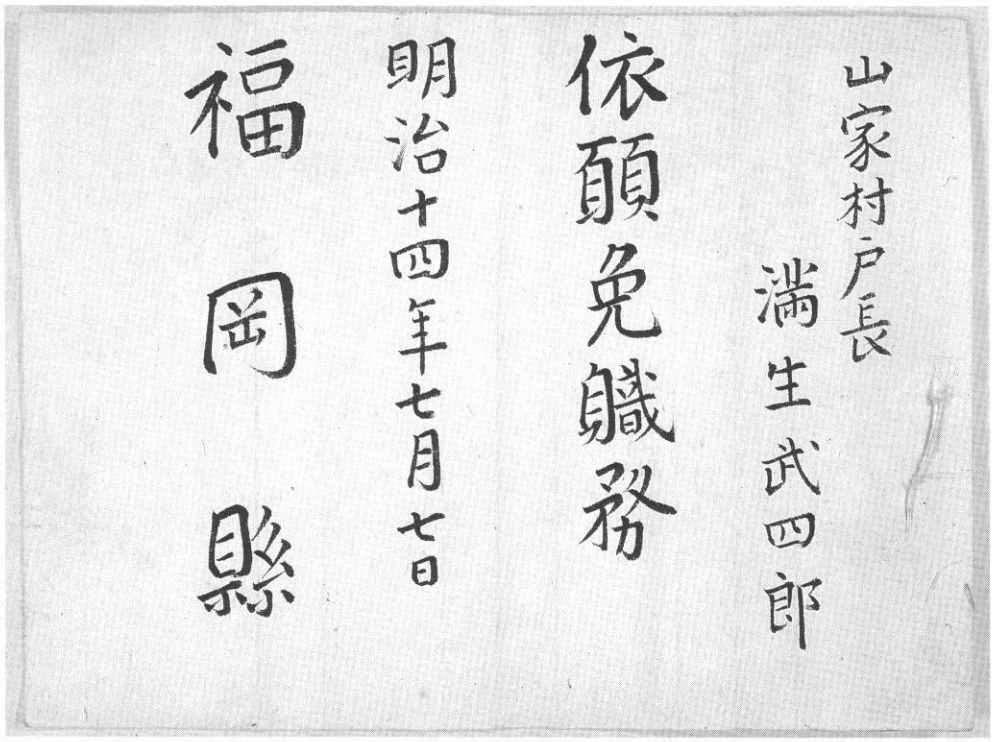
明治６年４月30日、副戸長事務取扱免職の辞令。３月に副戸長を免職になった満生武四郎は、しばらくは副戸長事務取扱をしていたものと見える。（１ノ小区）の新副戸長は勝村源三郎であった。

史料番号 534



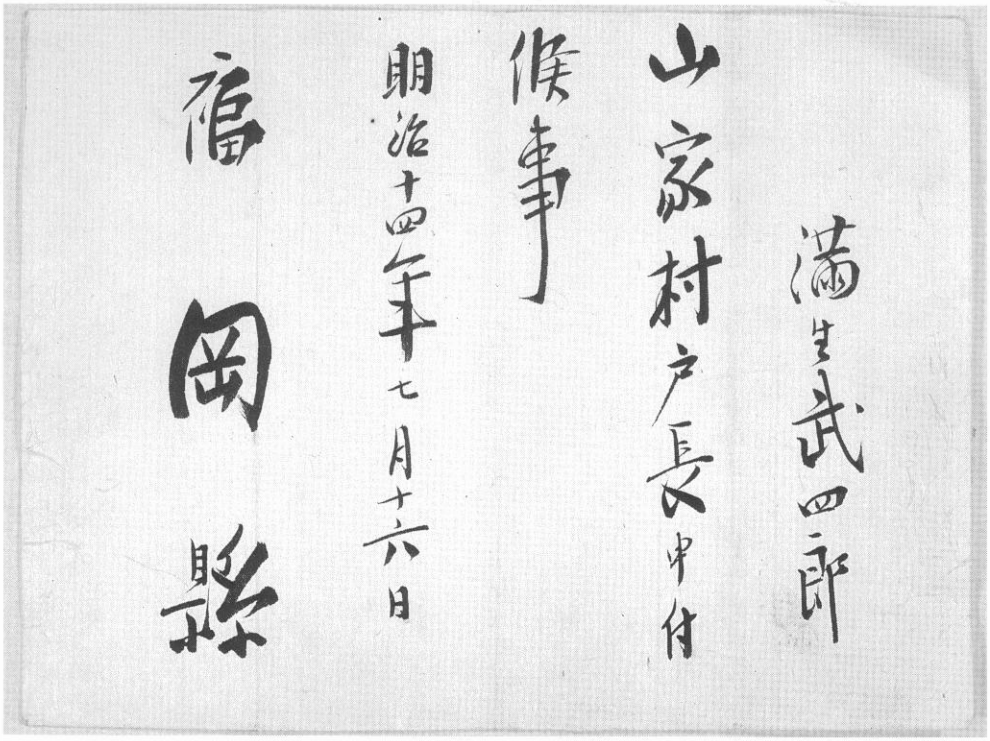
明治10年３月、大区小区制の改正で御笠郡は那珂・席田郡と合併して第八大区になり、山家村は（三小区）になった。小区の役場を扱所と云った。三小区扱所は下見村にあった。８月、満生武四郎は小区会議員に任命された。

史料番号 535



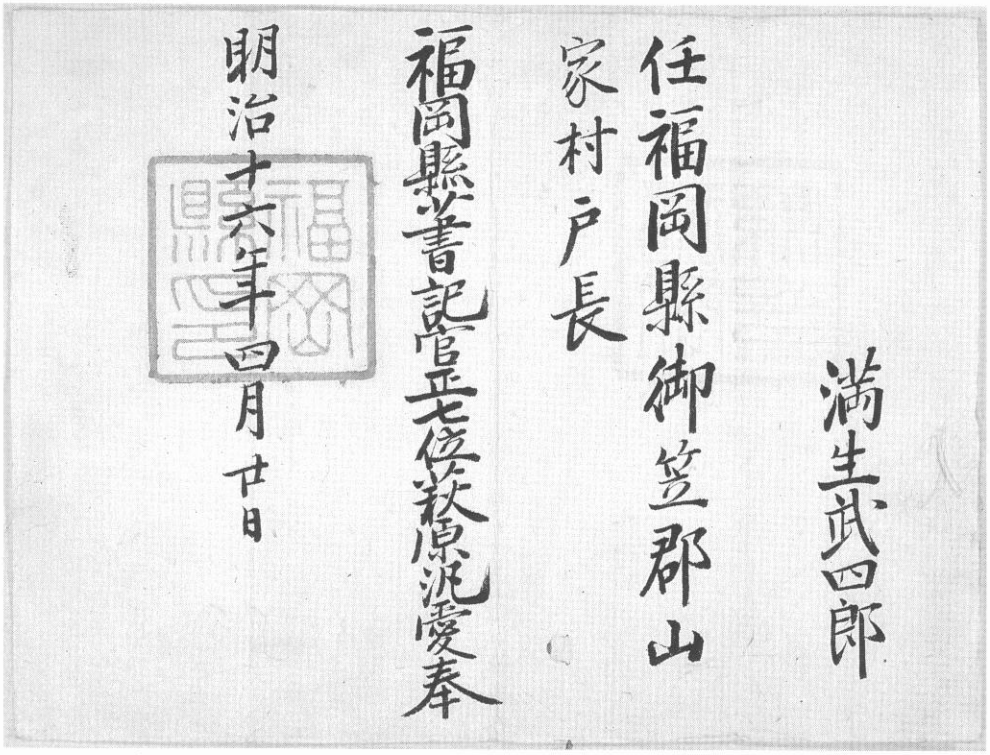
明治11年７月、郡区町村編成法により大区小区制が廃止され、町村が自治体として復活した。明治12年３月、満生武四郎は山家村戸長に公選された。この辞令は紛失している。写真は明治14年７月７日の依願免職の辞令である。

史料番号 536


満生武四郎
山家村戸長申付
候事
明治十四年七月十六日
福岡縣

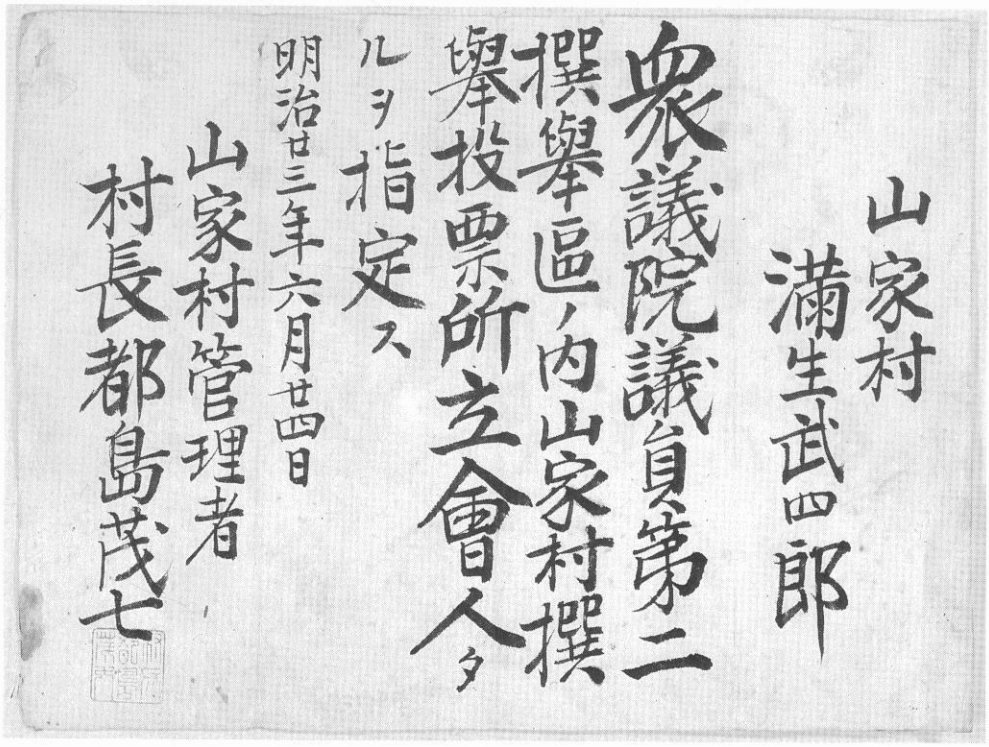
明治14年７月16日の山家村戸長の任命辞令。１週間前の依願免職の辞令との関係は分からない。

史料番号 538


満生武四郎
任福岡縣御笠郡山
家村戸長
福岡縣書記官正七位萩原況愛奉
明治十六年四月廿日

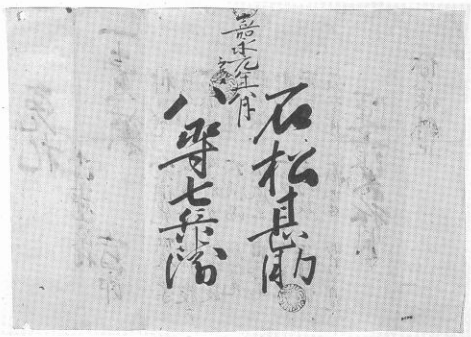
明治16年４月20日の山家村戸長の任命辞令。明治17年５月、区町村会法が改正になり、戸長公選制が官選制に代った。この時、戸長を辞職した満生武四郎は、７月11日、村会議員選挙に出て当選している。

史料番号 541


山家村
滿生武四郎
衆議院議員第二
撰擧區ノ内山家村撰
擧投票所立會人タ
ルヲ指定ス
明治廿三年六月廿四日
山家村管理者
村長都島茂七

明治23年７月１日、第１回衆議院議員総選挙が実施された。これはその１週間前の　山家村選挙投票所の立会人に指定された辞令である。満生武四郎は明治22年４月１日、市制町村制の施行により、村長助役に当選していた。

史料番号 527



（裏）

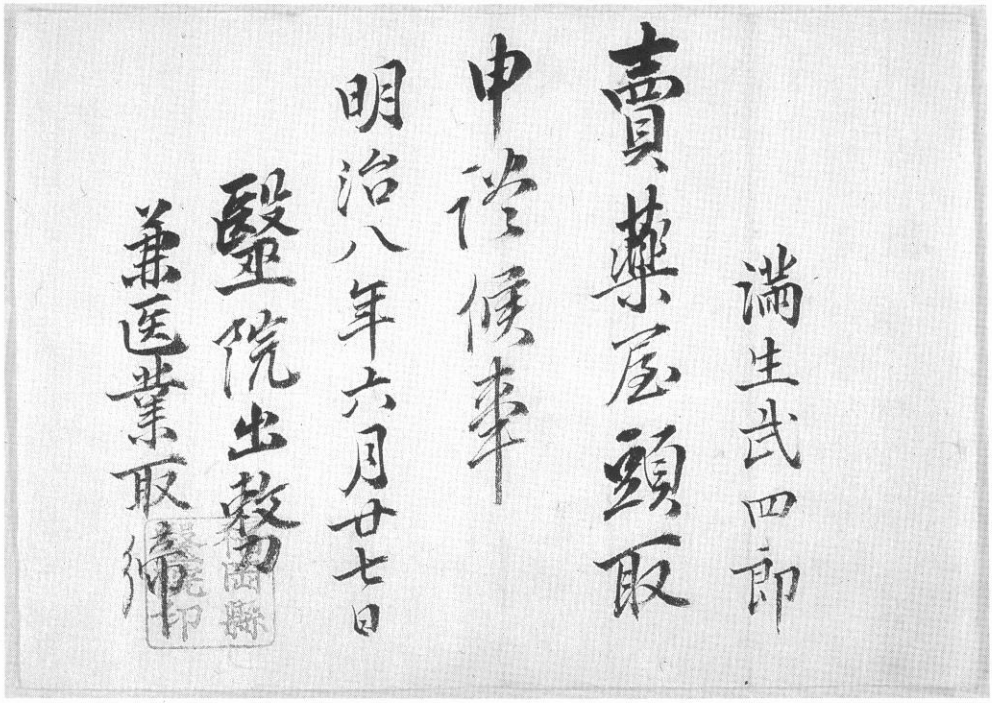
（表）

嘉永元年8月の売薬免許状。 本文解説参照。 裏面の石松甚助と八尋七兵衛は那珂席田夜須御笠郡の郡代役所の郡代である。八尋七兵衛が居合せなかったのは那珂席田担当だからである。夜須御笠担当の石松甚助が捺印している。

史料番号 528

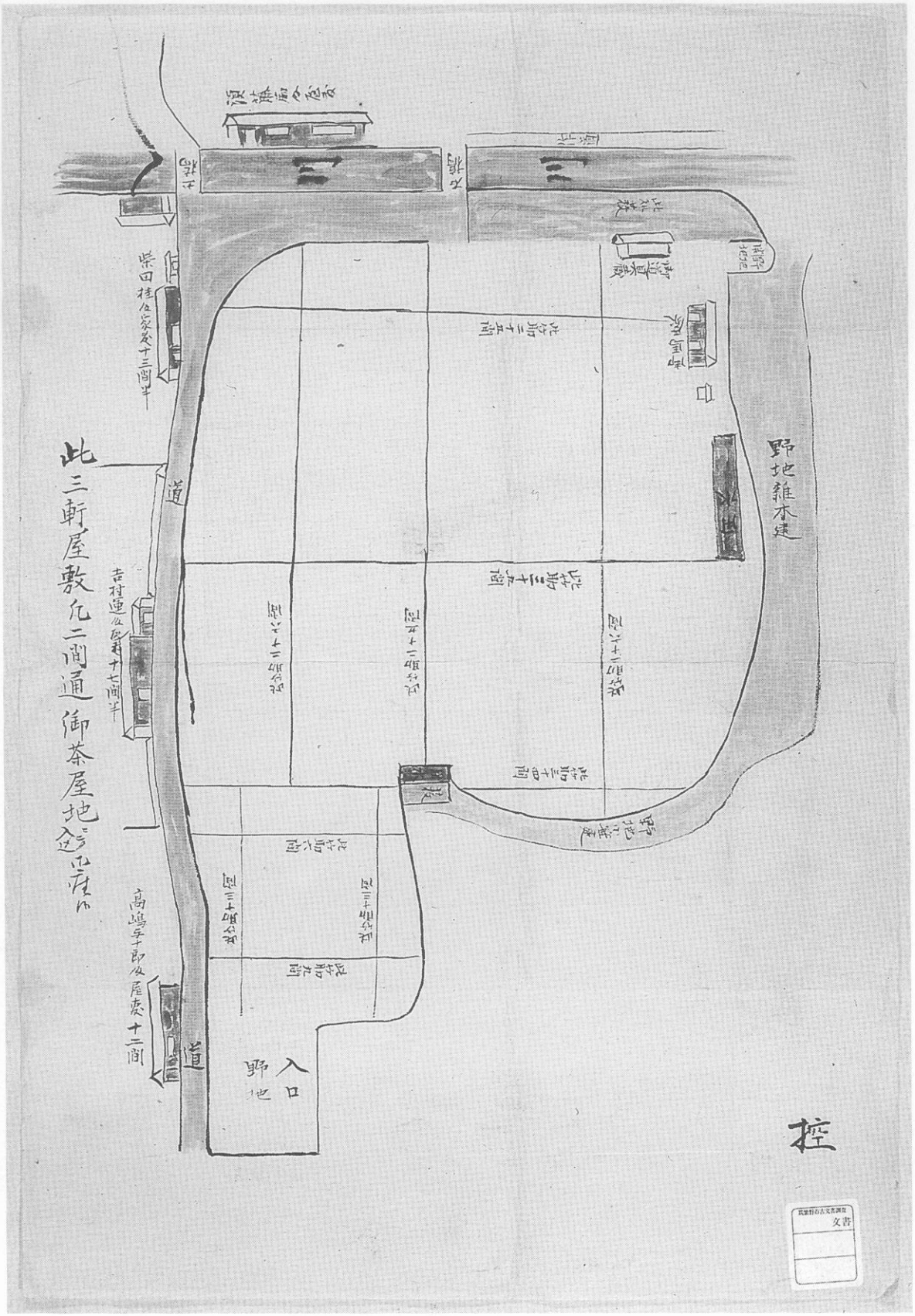
贊生館は幕末の文久年間に福岡藩が設立した医学校である。初代館長はシーボルトに西洋医学を学んだ武谷元立の長男武谷祐之である。医薬行政が贊生館役所に移っていたらしい。明治４年の廃藩で閉鎖されたが、付属病院は存続したという。

史料番号 531



明治８年６月の売薬屋頭取の辞令書。明治７年12月、福岡県は修猷館内に診察所を設け、将来、病院および医学校を開くと云っている。「医院出務兼医業取締」の医院は、明治８年新設の「福岡県医院」かもしれない。

史料番号 861－2



明治４年の廃藩後、解体された御茶屋の跡地の略図であるが、旧下代の四人の屋敷が描かれている。一番手前の「高嶋与十郎殿屋敷」と一番奥の「須藤励殿屋敷」（現佐藤家）は現在もその位置が変っていない。

凡　例

一、満生家（松尾屋）文書とは、昭和56年度の福岡県古文書等緊急調査において発見された満生熹憲氏ご所蔵の一括文書をいう。

一、同文書は、昭和56年７月30日以降、調査委員（当時）の近藤典二氏により保管されてきた。

一、同文書は近藤氏から筑紫野市立歴史民俗資料館に管理が依頼され、これを受けて平成２年12月19日から同館において保管している。

一、本書は同文書のうち、886点の目録である。

一、目録の作成および解説、史料復刻は近藤典二氏にお願いした。

一、史料目録は、解説にそって「松尾屋の大福帳簿類」、「山家宿の人馬賃銭関係帳簿類」、「山家村の庄屋・保長・戸長役場関係書類」、「司馬先生塾関係書類」、「満生武四郎の辞令ほか」に分類した。

一、原題が不明な史料は、便宜的に仮題を与え［　］を付した。

一、年代が記されていない文書のなかで、推定できるものについては（　）で記した。

一、史料復刻にあたって異体字は常用漢字に、変体仮名は平仮名に改め、句読点を加えた。

一、本目録以外の文書については、改めて目録を作成し発刊する予定である。

一、本書の編集および史料の整理は山村淳彦、日永田能成、筒井洋子、平山章子がおこなった。

目　　次

序

史料写真

凡　例

目　次

Ⅰ．解　説……1

Ⅱ．山家松尾屋満生家文書目録

松尾屋の大福帳簿類……15

山家宿の人馬賃銭関係帳簿類……18

山家村の庄屋・保長・戸長役場関係書類……22

司馬先生塾関係書類……45

満生武四郎の辞令ほか……46

Ⅲ．史料復刻（司馬先生塾関係書類）

文久二年戌二月　司馬先生石碑寸志簿……一

元治元年子春龍窟先生石碑建立勘定簿……三

文政十二丑年已後門弟名附写……六

銭受取覚……十

発起世話人……十三

解　説

近藤　典二

はじめに　――山家松尾屋満生家について――

御笠郡の東端に位置する山家村は、北は大根地山、東は砥上岳、西は宮地岳と、三方を山に囲まれ、南は低く田野が開けている細長い地域の村である。その南の境界線は博多と豊後日田を東西に結ぶ日田街道である。この村の中央を山家川が流れ、この流れに沿って長崎街道が南北に走っている。

村のほぼ中心には、宮地岳を背にした宝満宮が鎮座しているが、この道徳と呼ぶ小集落を本来の居住地としていたのが満生氏である。道徳にある満生家の墓地には首をなくした地蔵が祀られていて、その胸には天使の羽が刻まれている。キリシタン墓と思われる。

この満生氏の名は、古く山家宝満宮の寛永九年（1632）十月の、宮座衆十二番座二十四人のうち、一番座の本座に満生藤兵衛、十番座の助座に満生彦兵衛として見える。寛永九年当時、すでに長崎街道が豊前小倉から筑前黒崎・木屋瀬・飯塚・内野を通り、大根地山の冷水峠を越えて山家村に入り、この村の南に新設された山家宿に通じていたが、この新設の宿場町に十番座の満生彦兵衛が進出したものと考えられる。このことは、その百六十七年後の寛政十一年（1799）の宮座名簿の十番座に満生宅助が、さらにその百六十年後の昭和三十四年（1959）の十番座に満生武彦の名が見えるからである。満生武彦は松尾屋満生家の当主熹憲氏の先代であり、満生宅助は武彦の五代前の先祖にあたる。松尾屋満生家の過去帳によると、その家系は享保十七年（1732）一月十六日没の満生小平までさかのぼれる。

松尾屋満生家は上町の北側家並の東寄りにあり、西隣りが中茶屋（なかんちゃや）近藤家、東隣りが小路を隔てて川口屋水城家、小路の奥が郡屋水城家になっている。松尾屋の屋号がいつ始まったか分からないが、現存する大福帳でもっとも古い天保六年の「諸事請払帳」には松尾屋武四郎と見える。この武四郎が初代武四郎重温で、その三年前の天保三年二月当時は山家宿年寄であったことが知られている。

昭和五十六年七月、同家の土蔵解体で発見された松尾屋満生家文書は、この初代武四郎とその子の二代目武四郎正温の親子二代にわたる文書である。この大量の文書のうち特に注目される帳簿類に次の五群がある。

1．松尾屋の大福帳簿類
2．山家宿の人馬賃銭関係帳簿類
3．山家村の庄屋・保長・戸長役場関係書類
4．司馬先生塾関係書類（史料復刻）
5．満生武四郎の辞令ほか（口絵写真）

以下このうち1～4項についての概略を記して、松尾屋満生家文書目録の解説とする。

1．松尾屋の大福帳簿類

山家宿の中央、上町に居住する満生家がいつから松尾屋の屋号を称したのかは分からない。現存する三種の大福帳簿類のうちもっとも古いものはそれぞれ次の通りである。

a．天保六年「諸事請払帳」（史料番号777）

b．天保七年「大福万控帳」（史料番号73）

c．天保十五年「大福帳」　（史料番号196）

このいずれにも「松尾屋武四郎」の名が記されている。この天保年間の武四郎は初代武四郎で字を重温といった。満生武四郎重温の名は元治二年の大福帳までで、その翌慶応二年の大福帳では「満生市右衛門正温」に変わっている。この市右衛門が「二代武四郎正温」を名乗るのは明治三年からである。初代武四郎は慶応三年四月二十八日六十二才でなくなっている。西福寺の過去帳には「市右衛門父武四郎」とある。松尾屋では武四郎の名が武四郎正温の子まで三代にわたって襲名されている。

松尾屋には薬種屋の営業免許状が二点残っている。古い方が嘉永元年、新しい方は明治二年のものである。嘉永元年のもの（史料番号527、口絵写真）の文面は次の通である。

免　札

御笠郡山家村　武四郎

一売薬

神農丸	人参調順丸	熊胆龍丸子
奇応丸	反魂丹	安神散
山田振薬	如神丸	保寿散
批杷葉湯	大補湯	虎胆丸
国分散	振出風薬	目洗薬
即効紙	一宝丸	セメンシイナ丸
淋病薬	五巧散	無類膏
吸出膏	疵膏	打目ツキ目薬

運上銀五拾目

貸譲停止

（ウラ）

嘉永元年八月　　石松　甚助　㊞

ふ居合　八尋七兵衛

明治二年巳三月の「鑑札」（史料番号528、口絵写真）は「御笠郡山家村松尾屋武四郎」に上記と同じ薬種の「二十四味」について「賛生館役所」が「右薬味聞届」としたものである。松尾屋は薬種屋としての屋号だったのである。しかし松尾屋が薬種屋をはじめたのは、この嘉永元年八月からではない。すでに先に見た天保七年「大福万控帳」には、その冒頭に「取立」の項があって、正月から十二月まで筑前の全域にわたって置き薬の入れ替えと掛の取り立てに巡回していたことが見え

る。

大福帳は一般に「売掛金の発生、回収、残高の得意先別管理簿」をさすが、「大福万控帳」はその名のように諸事万端の会計帳簿である。その長帳には小見出しのラベルが付けられているが、ちなみに嘉永三年の「大福万控帳」の小見出しを見ると、次のような名前が並んでいる。

取立・薬種・紙・土産・米・薪・講・油・職・善・与銭・多・多銭・年・下女・守・日雇・駄賃・保箱・材木・反古・医師・休泊・牛馬・染物・□□・瓦・源助・借家

まず冒頭の「取立」の項を取り上げてみよう。これは筑前十六郡の全域にわたる配置薬の取立会計である。その最初の早良・怡土・志摩三郡の部分を紹介する。

早良春行

二月朔日より出、同十二日に入

一、金二両一歩二朱　代十六貫百五十文

一、札五両三歩・六百二十文

代三十九貫七百二十文

一、正銭一貫三百九十九文

〆五十七貫二百六十九文

此金八両一歩二朱　三百十六文の辻

一、銭四貫六百三十一文　諸雑用一切〆

三月十日出、同二十八日入

怡土志摩行

一、金五両一歩二朱　二朱八百五十五文

代三十六貫七百六十五文

一、札三両二歩二朱　五十文

代二十四貫六百五十文

〆

一、　二貫二百七十五文　買物

合六十一貫四百十五文

一、　六貫四百十三文　諸雑用

外に三百十六文　　猪胆一勺

一、　七百文　　日笠二枚

〆六十八貫八百五十四文

此内

二貫文　算用間違

引残て六十六貫八百五十四文

次の「薬種」は薬種の仕入れ覚である。仕入先は博多の鞍屋、秋月の知賀屋、甘木のほか対馬がある。

鞍屋喜平、正月十九日、金六両払

知賀屋九平、二月七日、金二両

甘木より、二月十六日、川骨十三斤六合二勺、代七百八十九文（五八替）

二月十八日、羌活二十二斤半、代一貫二百十五文、一斤五十四文宛

林田辰右衛門、

三月朔日、甘草一斤八合五勺、代二貫二百二十文、

但し斤に付一貫二百宛り

大黄一斤、代一貫七百文

〆金二歩銭五百二十文相渡

麝香三匁八分、代十二貫三百三十文渡

金一両三歩二朱、但し一匁に付き金二歩宛り

銭百七十文

対州早田藤兵衛、去酉八月二十九日、朝鮮本人参一本代金一両一歩、

内　金二歩二朱其節相渡

残て金二歩二朱は戌三月十日に相渡もの也

対州武村新蔵殿、四月十一日、朝鮮小人参半斤、代金一歩二朱

内二朱一片・銭二百文、四月十一日渡す

残て銭一貫五百文、戌八月六日払

林田辰右衛門、六月十九日、二貫文渡、右朱二十目代銭

〆

薬種商に関係があるものに「土産」がある。得意先に置き薬と一緒に渡す土産には、櫛・箸・縫い針のほか、元結があった。

秋月魚町元結屋利右衛門殿、三月二十日〇元結五百五十、代、夫与四郎取に参る

舟木の人、三月二十七日、櫛五十枚代、内三百文渡、残って五百五十文相渡四月九日

四月朔日〇元結二千五百

〇二口合三千五百五十、代四貫八百八十文、内三貫四百文、四月朔日渡

柳川、六月十二日、箸千五百、代金一歩二朱渡

長州舟木の人、六月二十五日、透櫛五十、代八百五十文、七月十八日に相渡

八月二十五日、同　五十、代八百五十文相渡

秋月綿屋利右衛門殿、七月九日、〇元結二千、代三貫二百文

十一月八日、同二千、代三貫二百文

内

△十一月八日、三貫四百文は金二歩相渡

同秋、札二十四匁相渡、代五百五十二文

○口、△口、差引残り銭三貫九百二十八文　ふ足

なお天保十二年・十三年には箸・針・すき櫛、同十五年には元結・櫛・箸・荒櫛が土産に持参されている。

次に「駄賃」は、薬種の仕入れに馬を雇ったものである。

戌三月十一日、浦町喜平一貫三百五十文今宿行、内八百文相渡置、二百文今宿昼飯料

三月十二日、百四十二斤博多鞍屋より是迄薬種莚包三つ代六百三十九文、斤に付四文半掛り、此分算用に立る

四月　二日、浦の下馬方徳七、銭二貫文渡、駄津皮籠

四月　二日、田町善右衛門、皮籠一荷、内野より是迄、駄賃百五十文渡

五月　七日、内野より是迄、内の馬、荷一駄、賃四百五十文

七月　三日、浦の下馬、薬種百二十三斤、駄賃六百十五文、但し斤五文掛り、福岡唐戸より是迄

七月　八日、つつみ新蔵、薬種百二斤、駄賃内百八十文渡、三百三十文渡、〆相済

十月十六日、浦町喜平、一貫五百文高、六百文、宗像行

十月十八日、取り替二百文、二百三十文は青柳泊り飯代

十月十七日、二百五十文、かわこ一荷、青柳より是迄、　此分算用に立る

十一月十五日、谷町半七、七百文、博多より是迄

十二月十四日、池田弥次郎、二百九十二文、福岡唐戸より牡蠣六十斤駄賃、但斤付四文半掛り

次に「保箱」がある。

正月二十日、鞭掛桧物屋、保箱七十三箱、一坪物左之通出来候、代八百三文、一箱に付十一文替

正月二十二日、朝日蔵役大工嘉吉請取、保箱七十四箱、作料八百十四文、但一箱に付十一文宛

正月二十二日、二百八十文かし、引残て四百三十四文、大福帳に写

「保箱」は「保養箱」とも書かれ、毎年新調しているので置き薬入れと思われる。天保十一年には鞭掛の指物屋孫次に一箱の作料板代とも十六文～十七文で、十・十一・十二月の三回で三百三十四箱を作らせ、天保十二年には朝日村蔵役の嘉吉に二百九十四箱を注文している。

次に「紙」は萩原村の紙屋伊平からの仕入が多い。

萩原　紙屋伊平

1月16日　荒板2束・掛目1200目、代2400文払、但し200文替100目に付

2月10日　荒板4束・掛目2320目、代4640文、但し200文替、内2月10日4630文渡

2月18日　荒板6束・掛目3540目、代、内金2歩2月18日渡

3月2日　荒板3束・掛目1960目

3月28日　荒板5束・掛目2880目、内4月1日金3両渡

4月6日　清長2束・掛目1340目、米屋政吉殿より受取

4月13日　清長4束2帖・掛目3140目

4月13日　荒板6束・掛目3760目

4月15日　荒板10束・掛目6360目、代、

内4月15日金2両相渡、同1両2歩預り書相渡、

来29日銀引替申分・銭1130文宿米代引付

5月3日　荒板510枚・掛目1750目

〆紙掛目27,050目、此外1月16日分1日代銭相済候間相除る

代銭54,100文、内53,360文追々相渡す分

引残て740文　5月3日相渡済、外に896文　清長算用間違い分

〆1636文之辻5月3日相渡済

日田の人

5月19日上広方4束、代2520文、束に付630文替

6月18日広方2束、代揃反古2200目と替え口致し候

同　白半切1〆、代1600文、内200文相渡、残て1400文不足、

此分7月6日に相渡

久留米元次殿

6月晦日溝口2束代1000文此分渡不申候、但し7月12日相渡済

10月12日豊国印中折3束7帖代1554文、但し1束に付420文替

11月4日溝口1束代530文

亥1月9日広方3束代1710文但し1束に付420文替

同　広方3束代1710文　五七替

2．山家宿の人馬賃銭関係帳簿類

初代武四郎の子、市右衛門は明治三年十月山田芳作の後を受け山家村庄屋になるまで、山家宿の年寄役を勤めていた。年寄というのは宿継ぎの人馬賃銭の会計を担当する宿役人である。その年寄役時代の文書として慶応四年と明治二年の「人馬誂帳」と「人馬賃銭勘定帳」がある。それには山家宿で人馬を雇った諸藩の藩士の名前、一行の人数、上り下りの別、人足と馬の種類別の員数、問屋詰の出方当番の名前、先方から受け取った人馬賃銭、馬子人足に支払った賃銭、およびその収支決算が毎日記帳されている。諸藩の藩士の通行に限られているとは言え、人馬継ぎ立ての実態を詳細に知ることができる貴重な史料である。この帳簿の分析はこれからの研究課題であるが、ここではその史料の第一冊「慶応四年三月朔日より九日迄御笠郡山家宿諸通継立人馬余銭書上帳」（史料番号14）の冒頭の一日分だけを紹介する。

三月朔日　　諸通なし
三月二日　　嶋原　吉田兼太夫
上り六貫四百八拾文
一、人足八人
上り三貫百八拾文
一、本馬弐疋
　　弐疋まし
上り壱貫五拾七文
一、軽尻壱疋
〆丁銭拾貫七百拾七文
銀預拾七貫百四拾七文
　　内
銭四貫八拾文
　馬三疋割馬五疋渡
同五貫弐百文
　人足八人渡
〆銭九貫弐百八拾文
残て銭七貫八百六拾七文　　余銭

肥州　渋谷　兵蔵
　　諸隈　嘉平
上り壱貫六百弐拾文
一、人足弐人　町夫

上り壱貫五拾七文
一、軽尻壱疋　内の五七
〆丁銭弐貫六百七拾七文
　銀預四貫弐百八拾三文
　　内
　　銭壱貫三百文　人足弐人渡
　　同壱貫弐百文　宿馬壱疋渡
　〆銭弐貫五百文
残て銭壱貫七百八拾三文　　余銭

　　薩州　　牧吉右衛門・大山万右衛門
　　佐土原　安野十三郎・坂本甚兵衛
下り八百八拾四文
一、人足弐人
下り七貫五百壱文
一、飛乗馬拾三疋
〆丁銭八貫三百八拾五文
　銀預拾三貫四百拾六文
　　内
　　銭壱貫三百文　人足弐人渡
　　同拾五貫六百文　宿馬拾三疋渡
　〆銭拾六貫九百文
残て銭三貫四百八拾四文　宿馬足銭不足

　　久留米　内家　伝蔵
下り五貫七百四拾六文
一、人足拾三人　　御定法
下り弐貫弐百拾文
一、同　弐人　　御定法外
〆銭七貫九百五拾六文
　銀預拾弐貫七百弐拾九文
　　内
　　銭九貫七百五拾文　　人足拾五人渡
　〆
残て銭弐貫九百七拾九文　　余銭

長府　梶山伝右衛門

原田壱貫拾五文

一、人足五人

銀預壱貫六百弐拾四文

内

銭壱貫文　　人足五人渡

残て銭六百弐拾四文　　余銭

長州　安野正次郎

原田早追八百拾弐文

一、人足四人

銀預壱貫弐百九拾六文

内

銭八百文　　人足四人渡

残て銭四百九拾九文　　余銭

合銀預拾三貫七百五拾弐文

内

銭三貫四百八拾四文　　宿馬足銭不足分

残て銭拾貫弐百六拾八文　　全余銭

この一日分の記録だけでも細かに見てゆくと、いろいろなことが分かってくる。

1．行く先は、「上り」が長崎街道の内野宿行き、「下り」が薩摩街道の松崎宿行き、「原田」が長崎街道の原田宿行き、の三方面であること。

2．上りの「本馬」賃が1590文、「軽尻」賃が1057文、「人足」賃が810文だったこと、下りと原田行きの人足賃がそれぞれ442文、203文であったこと。

3．「御定法外」賃銭が「御定法」賃銭の２倍半だったこと。

4．先方から受け取る賃銭は丁銭（正銭・全国通用の銭）で、馬子人足に支払う賃銭は銀預（福岡藩内だけ通用の銀札）であったこと。

5．丁銭１文は銀預の1.6倍、つまり銀預は丁銭の62.5％の価値しか無かったこと、此の差額を利用して宿場側は余銭を稼いでいたこと。

などが判明する。

さらに第二冊以降の帳簿によると、

1．問屋場には毎日交代で村人が「出方」勤務していたこと。

2．相手方からは本馬、軽尻の区別で受け取った賃銭を、村の馬子人足には均一の賃金で支払っていること。

3．馬には宿馬と村馬の区別があること。
4．人足にも助郷として出役する村人のほかに「部屋人足」というのがいたこと。
5．「部屋人足」には一人宛て「部屋次米」500文が毎日支給されていたこと。
などが次第に分かってきて歴史探究の興味は尽きることがない。

3．山家村の庄屋・保長・戸長役場関係書類

満生市右衛門は明治三年十月、二代目武四郎を襲名して山家村庄屋となり、同五年六月、庄屋の名称が廃止されると同時に副戸長になった。新たに戸籍編成の仕事が加わったのである。

明治六年三月、大区小区制度の実施により福岡県は十六の大区に分かれ、御笠郡は第十二大区となり、さらに区内が十二の小区に分けられた。山家・天山・下見の三か村が一小区となり、勝村源三郎が新たに一小区の副戸長に任命された。このとき満生武四郎は副戸長を辞め、四月、改めて山家村の保長になっている。山家村保長は七名で、武四郎のほかは元の組頭であった。明治七年一月には、小区数が十二から十六に増え、一小区は山家と天山の二か村になった。

明治九年十二月の改正で、福岡県の十六大区制は九大区制に整理統合された。山家村は第八大区の三小区になった。第八大区は元の第十二・第十三大区を合併したもので、御笠・那珂・席田の三郡である。満生武四郎は改めて明治十年六月、山家村保長を申し付けられている。明治十一年七月、「三新法」が公布され、その一つ「郡区町村編成法」により元の郡村の名称が行政区として復活した。村には戸長一名が公選されることになり、十二月八日、満生武四郎が御笠郡山家村戸長になった。この年のうちは、公文書には「旧第八大区三小区山家村」と書かれている。

明治十七年七月、公選戸長制が官選戸長制に改正された時、満生武四郎は戸長を辞めて山家村村会議員に当選し、やがて議長となっている。松尾屋満生文書の役場関係帳簿は、この明治十七年六月の「前半額地方税及貯蓄金徴収場簿」が最後である。

明治維新後の目まぐるしく変動した地方行政制度の中にあって、庄屋・副戸長・保長・戸長を歴任した満生武四郎は、十七年間の役場文書をそっくりそのまま残してくれている。またこれを今日迄大事に保存されてきた満生家に心から感謝したい。全県下を見渡しても、大区小区制時代の扱所および郡村制が復活した時代の戸長役場関係の文書が保存されている例は極めて少ない。なかでもとくに明治十一年から十七年までの戸長役場時代の山家村の各種の税の徴収簿が揃っている。その詳細な分析と研究は将来に待つことにして、目録を作成したばかりの現段階では、とりあえず、以下その税徴収簿の名称だけを掲げて置くことにする。

11年　①地税徴収簿　　（宿分・村分・下西山分・西山分）
②地方税共力費収徴簿
③村費収納簿
④秣場税収徴簿
⑤商業税収徴簿
12年　①秣場税収徴簿
②地租収徴簿
③地方税協議費収徴簿　　7月・12月
④共力費徴収簿
⑤商工税収徴根簿
⑥商業税・県税半額収納簿　　12年12月
13年　①地租収徴簿
②秣場税収徴簿
③協議費収徴簿
④学校費協議費収徴簿
⑤地方税収徴簿　　6月・11月
⑥前期三郡協議費村協議費学校費収徴簿　　13年10月
⑦後期三郡協議費村協議費学校費収徴簿　　14年1月
⑧商業税雑種税収簿
⑨商業・雑種税収徴簿
14年　①前期半額協議費場簿　　14年9月
②後期半額協議費場簿　　15年1月
③前期三郡土木費郡中土木費村協議費収徴簿　　14年9月
④後期三郡土木費郡中土木費村協議費収徴簿　　15年1月
⑤地租収徴簿
⑥地租一期各種五歩納場簿　　14年8月
⑦地租二期各種五歩収納場帳
⑧地租三期田方五歩納収納場簿
⑨地租四期田方五歩納収納場簿
⑩地方税収納場簿
⑪秣場税収徴簿
⑫地方税貯蓄金収入庭簿　　7月・12月
⑬商・雑種・職工税収徴簿
⑭商業国税地方税徴収簿　15年1月

15年　①秣場税収徴簿

②前半額地方税及貯蓄金収徴簿

③前半額地方税及貯蓄金納簿・後半額地方税収徴簿（上西山分）6月・11月

④前半期民費・学費・土木費収徴場簿　15年8月

⑤後半額地方税収徴簿　15年11月

⑥土木会費三郡及本郡協議費場簿　16年1月

⑦後期分学校費場簿　16年1月

⑧地租第一期五分納場簿　15年8月

⑨地租第二期各種五歩納場簿　15年10月

⑩地租第三期田方五歩納場簿

⑪地租第四期田方五歩納収徴場簿　16年2月

⑫商業国税地方税徴収簿　15年7月

16年　①前半期地方税及び学校費貯蓄金・15年度村協議費庭簿　16年6月

②後半期地方税・同三郡協議費・郡協議費・土木会費・学費収徴場簿　12月

③第一期畑各種五分納収徴簿　16年8月

④第二期畑各種五分納収徴場簿　16年10月

⑤第四期田方地租金収徴場簿　17年3月

⑥商業国税地方税収徴簿　16年1月・7月・17年1月

17年　①前半額地方税及貯蓄金徴収場簿　17年6月

4．司馬先生塾関係書類（史料復刻）

松尾屋満生家文書のなかに、手習塾の先生の石碑建立に関する一括した書類があった。それは次の５点である。

1．文久二年戌二月司馬先生石碑寸志簿　（史料番号843）
2．元治元年子春龍窟先生石碑建立勘定簿（史料番号844）
3．文政十二丑年以後門弟名附写　（史料番号845）
4．銭受取覚　（史料番号846）
5．発起世話人連名　（史料番号847）

近世の江戸時代には、一般に寺子屋といわれるものが全国各地にあったことは知られているが、その具体的な史料はそれほど残ってはいない。この５点の文書は、司馬先生の記念碑を建てるために、教え子たちが寄付金の募集をした際の記録である。その世話人の代表が満生市右衛門だったので、この書類が松尾屋満生家文書のなかに残っていたのである。この書類の中でもっとも貴重なものは「門弟名附写」である。これはこの手習塾が開かれたと考えられる文政12年（1829）から、毎年入門した子供の姓名を記帳したものである。入門の年は、丑・寅・卯・辰・巳というように干支で示されていて、嘉永元年（1848）の申年まで確認できるが、この年以後もまだ52名の名前が続いていて、全員で244名に及んでいる。しかもそれぞれの人物には頭注に募金当時の住所と名前が記入されているので、この書類とは別の「明治三年三月山家村宗旨御改帳」（史料番号38）によって、それぞれの人物の入門当時の年令が特定できるというたいへん貴重な入門帳である。

司馬先生については、満生家文書の「大福帳」によって、司馬来輔という借家住いの浪人者らしいこと、石碑建立の募金が始められた翌年の文久３年２月に79才で亡くなったこと、石碑が建ったのはさらに翌年の元治元年（1864）だったことなどが分かるだけで、肝心の石碑が何処を探しても見付からないという、はなはだ不思議な人物である。しかし30年という長い期間、244人もの村の子供たちに手習を教え続けていたということは確かな事実である。この教え子たちの名前が全員名字付で記帳されていること、男女の比率が明治以降の村の小学校生徒のそれと全く同じであることなど、注目すべき点は非常に多い。

以上のような理由で、数多い満生家文書の中から、一つのまとまった史料としてこれを選んで復刻することにした。

満生家文書目録

番号	史料名	年代	形態	史料番号
◆	**松尾屋の大福帳簿類**			
1	大福万控帳　松尾屋武四郎	天保七歳丙申正月吉日	長帳	73
2	大福万控帳　松尾屋武四郎	天保十一年子正月吉日	長帳	74
3	大福万控帳　松尾屋武四郎	天保拾弐歳丑正月吉日	長帳	75
4	大福万控帳　松尾屋武四郎	天保十三年寅正月吉日	長帳	76
5	大福万控帳　松尾屋武四郎	天保十五年辰正月吉日	長帳	77
6	大福万控帳　松尾屋武四郎	弘化二年巳正月吉日	長帳	78
7	大福万控帳　松尾屋武四郎	弘化四稔未正月吉日	長帳	79
8	大福万控帳　満生武四郎	弘化五年申正月吉日	長帳	80
9	大福万控帳　満生武四郎	嘉永二年己酉正月吉日	長帳	81
10	大福万控帳　満生武四郎	嘉永三年庚正月吉日	長帳	82
11	大福万控帳　満生武四郎	嘉永四年辛亥正月吉日	長帳	83
12	大福万控帳　満生武四郎	嘉永五年壬子正月吉日	長帳	84
13	大福万控帳　満生武四郎	嘉永六年丑正月吉日	長帳	85
14	大福万控帳　満生武四郎	嘉永七年庚寅正月吉日	長帳	86
15	大福万控帳　満生武四郎	安政四年丁巳正月吉日	長帳	87
16	大福万控帳　松尾屋武四郎	安政五年戊午正月吉日	長帳	88
17	大福万控帳　満生武四郎	安改六年己未正月吉日	長帳	89
18	大福万控帳　満生武四郎	明治第廿四年辛卯一月吉日	長帳	90
19	諸事請払帳　松尾屋武四郎	天保九歳戌正月吉日	長帳	91
20	諸事請払帳　松尾屋武四郎	天保拾弐歳丑正月吉日	長帳	92
21	諸事請払帳　松尾屋武四郎	嘉永四年亥七月十三日	長帳	93
22	諸事請払帳　満生武四郎	嘉永五年壬子正月吉日	長帳	94
23	諸事請私帳　満生姓	嘉永七年庚寅正月吉日	長帳	95
24	諸事請払帳　満生姓	安政二年乙卯正月吉日	長帳	96
25	諸事請払帳　満生武四郎	安改三年丙辰正月祥日	長帳	97
26	諸事請払帳　満生武四郎	安政四年丁巳正月吉日	長帳	98
27	諸事請払帳　満生武四郎	安政五年戊午正月吉辰	長帳	99
28	諸事請払帳　満津雄屋実勢	安政六年己未正月祥晨	長帳	100
29	諸事請払帳　満生氏	安政七年庚申正月吉日	長帳	101
30	諸事請私帳　［松尾屋武四郎］	文久三年亥正月吉日	長帳	102
31	諸事請払帳　松尾屋武四郎	文久四年甲子正月吉日	長帳	103
32	金銭取替帳　満生文内	天保十一年子正月吉日	長帳	104
33	居家普請諸帳　満生武四郎	嘉永二年己酉正月吉日	長帳	105

番号	史料名	年代	形態	史料番号
34	農事一切召仕日雇日記帳　満生武四郎	安政四年丁巳正月吉日	長帳	106
35	農事一切召仕日雇日記帳　満生武四郎	安政七年庚申正月吉日	長帳	107
36	農事一切召仕日雇日記帳　満生武四郎	万廷二年辛酉正月吉日	長帳	108
37	僕日雇日記帳　満生武四郎	明治第十五年壬午一月吉辰	長帳	109
38	僕日傭日記帳　満生武四郎	明治第廿八年乙未一月吉辰	長帳	110
39	薬売立帳　松尾屋武四郎	嘉永七年甲寅正月吉日	長帳	111
40	薬売立帳　松尾屋店	安政二年乙卯正月吉日	長帳	112
41	薬売立帳　松尾屋店	安政七年庚申正月吉日	長帳	113
42	薬売立帳　松尾屋店	万廷二年辛酉正月吉日	長帳	114
43	薬売立帳　松尾屋店	文久二年壬戌正月吉日	長帳	115
44	薬売立帳　松尾屋店	文久四年甲子正月吉日	長帳	116
45	薬仕入高帳　松尾屋武四郎	文久二年壬戌正月吉日	長帳	117
46	薬仕入高帳　松尾屋武四郎	文久四年甲子正月吉日	長帳	118
47	大福帳　松尾屋武四郎	天保十五年辰正月吉日	小横帳	196
48	大福帳　松尾屋武四郎	弘化二年巳正月吉日	小横帳	197
49	大福帳　松尾屋武四郎	弘化三歳午正月吉日	小横帳	198
50	大福帳　満生武四郎	弘化四年未正月吉日	小横帳	199
51	大福帳　満生武四郎	弘化五年申正月吉日	小横帳	200
52	大福帳　満生武四郎	嘉永二年酉正月吉日	小横帳	201
53	大福帳　満生武四郎	嘉永三年庚戌正月吉日	小横帳	202
54	大福帳　満生武四郎	嘉永四年辛亥正月吉日	小横帳	203
55	大福帳　満生武四郎	嘉永五年壬子正月吉日	小横帳	204
56	大福帳　満生武四郎	嘉永六年丑正月吉日	小横帳	205
57	大福帳　満生武四郎	嘉永七年甲寅正月吉日	小横帳	206
58	大福帳　満生武四郎	安政二年乙卯正月吉日	小横帳	207
59	大福帳　満生武四郎	安政三年丙辰正月祥日	小横帳	208
60	大福帳　満生武四郎	安政五天戊午正月祥日	小横帳	209
61	大福帳　満生武四郎	安政六天己未正月祥日	小横帳	210
62	大福帳　溝生武四郎	安政七天庚申正月吉日	小横帳	211
63	大福帳　溝生武四郎	万廷二年辛酉正月祥日	小横帳	212
64	大福帳　満生武四郎字重温	文久二天壬戌正月祥日	小横帳	213
65	大福帳　満生武四郎字重温	文久三年亥正月祥日	小横帳	214
66	大福帳　満生武四郎字重温	文久四年甲子正月祥日	小横帳	215
67	大福帳　満生武四郎重温	元治二天乙丑正月祥日	小横帳	216

番号	史料名	年代	形態	史料番号
68	大福帳　満生市右衛門正温	慶応二天丙寅正月祥日	小横帳	217
69	大福帳　満生市右衛門	慶応三天丁卯正月祥日	小横帳	218
70	大福帳　満生市右衛門	慶応四天戊辰正月祥日	小横帳	219
71	大福帳　満生氏正温	明治二天己巳正月祥日	小横帳	220
72	大福帳　満生武四郎正温	明治三天庚午正月祥日	小横帳	221
73	大福帳　満生武四郎正温代	明治五天壬申正月吉日	小横帳	222
74	大福帳　満生武四郎	明治七年庚戌一月	小横帳	223
75	大福帳　満生武四郎正温	明治第八年乙亥一月祥日	小横帳	224
76	大福帳　満生武四郎	明治第九年丙子一月祥日	小横帳	225
77	大福帳　満生武四郎正温	明治第十年丁丑一月吉日 寅卯辰共ニ	小横帳	226
78	大福帳　満生武四郎	明治第十五年壬午一月吉辰日	小横帳	227
79	大福帳　満生武四郎	明治十九年丙戌一月吉日	小横帳	228
80	嘉麻穂波行入替調子帳	明治十三年辰二月吉祥日	長帳	772
81	遠賀郡川筋行薬調子	明治十四年巳五月吉日	長帳	773
82	怡土志摩薬調子帳	明治十五年午二月吉日	長帳	774
83	遠賀川筋薬調子高帳	明治十五年午旧三月吉日	長帳	775
84	遠賀郡黒崎行調子帳	明治十五年午旧三月吉日	長帳	776
85	諸事請払帳	乙未天保六稔正月吉日	長帳	777

番号	史料名	年代	形態	史料番号
◆	**山家宿の人馬賃銭関係帳簿類**			
86	人馬御誂蝶	慶応四年辰三月十日～五月晦日迄	長帳	1
87	諸通り人馬御誂控	慶応四年辰六月二日～	長帳	2
88	諸藩通行人馬御誂控	慶応四年辰七月朔日～十月迄	長帳	3
89	諸藩御通行人馬御誂帳	慶応四年辰十一月三日～十二月廿九日迄	長帳	4
90	諸藩御上下人馬御誂勘定帳	明治弐年巳正月元日改～三月晦日迄	長帳	5
91	諸藩御上下人馬御誂帳	明治弐年四月朔日～五月廿九日迄	長帳	6
92	諸通御上下人馬御誂帳	明治弐年巳四月朔日～五月廿九日迄	長帳	7
93	諸藩御上下人馬御誂帳	明治二年巳四月十四日～五月廿九日迄	長帳	8
94	諸藩御通行人馬御誂帳	明次二年巳六月朔日～八月廿九日迄	長帳	9
95	諸藩御通行人馬賃銭御誂帳	明次二年巳九月朔日～晦日迄	長帳	10
96	諸藩御通り上下人馬御誂帳	明次二年巳十月朔日～廿九日迄	長帳	11
97	諸藩御上下御通行人馬御誂帳	明次二年巳十一月朔日	長帳	12
98	諸藩御上下御通行人馬御誂帳	明治弐年巳十二月朔日改	長帳	13
99	御笠郡山家宿諸通継立人馬余銭書上帳	慶応四年三月朔日～九日迄	長帳	14
100	人馬貸銭受払勘定帳	慶応四年三月十日改六月朔日迄	長帳	15
101	諸通り人馬継立貸銭勘定帳	慶応四年辰六月二日～同廿九日迄	長帳	16
102	諸藩御通行人足賃銭勘定帳	慶応四年辰七月朔日～十月晦日迄	長帳	17
103	諸藩御通行人馬賃銭勘定帳	慶応四年辰十一月朔日～十二月廿九日迄	長帳	18

番号	史料名	年代	形態	史料番号
104	人馬継立賃銭受払勘定帳	明治弐年巳正月元日～三月晦日迄	長帳	19
105	諸通人馬賃銭引払勘定帳	明治二年巳四月朔日～五月廿九日迄	長帳	20
106	諸藩御通行人馬賃銭勘定帳	明次二年巳六月朔日～七月廿九日迄	長帳	21
107	諸藩御通行人馬賃銭勘定帳	明次二年巳八月朔日～	長帳	22
108	諸藩御通行人馬賃銭勘定帳	明治二年巳九月朔日～晦日迄	長帳	23
109	諸藩御通行人馬賃銭勘定帳	明治二年巳十月朔日～同廿九日迄	長帳	24
110	諸藩上下御通行人馬賃銭勘定帳	明次二年巳十一月朔日	長帳	25
111	諸藩御上下御通行人馬余銭勘定帳	明治弐年巳十二月朔日改	長帳	26
112	諸藩御上下人馬勘定帳	明治元年辰四月朔日～五月廿九日迄（実は明治二年巳四月・五月の分）	長帳	27
113	慶応四年明治二年辰巳両年継立余銭月々〆上之分控		長帳	28
114	問屋継立余銭請払	慶応四年辰正月吉日	長帳	29
115	御金札両替員数控	（明治二）巳二月	長帳	30
116	［山家宿人馬賃銭書上］	（明治元年）辰九月	書綴	31
117	諸公役組当帳	明治二年巳正月吉日	長帳	32
118	人足当附　東組	明治三年午正月吉日	小横帳	33
119	人足当附　西組	明治三年午正月吉日	小横帳	34
120	諸公役組当帳	明治四年未正月吉日	長帳	35
121	諸御通方控	明治四年未正月吉日	長帳	36
122	人馬触附根帳	明治五年中正月吉日	長帳	37
123	御笠郡山家宿諸通継立人馬余銭書上帳	慶応四年辰正月廿四日～同廿九日迄	長帳	71
124	御笠郡山家宿諸通継立人馬余銭書上帳	慶応四年辰二月朔日～同晦日迄	長帳	72
125	拾九大隊歩兵熊本下向達旅籠　茶代配当帳	明治六年酉第七月五日夕	長帳	180
126	熊本鎮台下向兵隊送人足帳	（明治六年七月）	長帳	181
127	大阪府鎮台兵隊熊本下向達宿割帳	明治六年酉七月五日	長帳	182

番号	史料名	年代	形態	史料番号
128	［宿かご目籠くつ割付帳］山家宿		長帳	183
129	山家宿詰馬割方帳写	明治三年午三月	長帳	184
130	［山家触各村馬面役割付帳］		長帳	185
131	諸藩通行宿馬足銭控	（明治三年）午五月分	長帳	186
132	諸藩上下御通行宿馬継立足銭渡方帳 山家触分	明治二年午三月朔日～	長帳	187
133	諸公役組当帳	明治三年午正月吉日	長帳	188
134	人馬触附根帳	明治三年午正月吉日	長帳	189
135	人馬触附根帳	明治四年未正月吉日	長帳	190
136	人馬賃余銭宿備帳入　山家宿庄屋 山田得右衛門	明治二年巳九月	長帳	329
137	［山家宿人馬賃銭］	（慶応四年）辰一月二十三日	継紙	475
138	［山家宿人馬賃銭書上］	慶応四年辰九月二十五日	書綴	476
139	［山家宿人馬賃銭書上］	辰九月	書綴	477
140	［山家宿人馬賃銭書上］		書綴	478
141	［山家宿人馬賃銭書上］	辰九月	書綴	479
142	［山家宿人馬賃銭書上］本控	辰九月不用分也	書綴	480
143	［山家宿人馬賃銭書上］断簡綴		書綴	481
144	［内野宿人馬賃銭書上］内野宿年寄 山内百右衛門	辰九月	横折	482
145	［内野宿人馬賃銭書上］内野宿年寄 山内百右衛門	辰十月	書綴	483
146	［飯塚宿人馬賃銭書上］	辰　月	書綴	484
147	山家宿人馬賃銭覚	（明治元年）	一紙	485
148	［山家宿人馬賃銭］元賃銭21文ニ 77掛　1里161文掛也	（明治元年）	一紙	486
149	［山家宿人馬賃銭］13人ニ13疋之外	（明治元年）	一紙	487
150	［山家宿人馬賃銭］1人1里ニ付 21文の分、20文の分	（明治元年）	継紙	488
151	［山家宿人馬賃銭］元賃銭ニ75掛分、 77掛分20文21文	（明治元年）	長帳	489
152	覚（飯塚～松崎迄人馬賃銭）	辰八月二十五日夕	継紙	490
153	六宿役人中名元控	明治元年辰十一月	長帳	491

番号	史料名	年代	形態	史料番号
154	御笠郡原田宿庄屋年寄問屋乍恐御願申上ル事	明治二年二月	継紙	492
155	御笠郡山家宿庄屋年寄問屋乍恐御願申上ル口上之覚	明治二年巳三月	継紙	493
156	御笠郡山家宿庄屋年寄組頭乍恐御願申上ル口上之覚	明治二年八月	長帳	494
157	覚［山家宿馬強料並びに日々足銭］	明治二年八月	横帳	495
158	遊撃第八大隊、遊撃第四大隊、後備第五大隊山家駅三泊当用書類	明治十年十月改	袋	496
159	遊撃歩兵第八大隊登り達人馬及び宿割状持仕拂　福岡県山家駅継立分	明治十年十月二日当駅泊り	長帳	497
160	遊撃歩兵第八大隊登り達諸事受拂根帳	明治十年十月二日	長帳	498
161	広嶋遊撃隊人馬觸	明治十年丑十月二日	長帳	499
162	遊撃歩兵第八大隊登り達受拂根帳	明治十年十月二日分六日改	長帳	500
163	村々夜具受取帳	（明治十年十月三日～五日）	長帳	501
164	遊撃歩兵第四大隊登り達人馬旅飯其他受拂根帳	明治十年十月九日泊り分	長帳	502
165	夜具ふとん拂簿	明治十年十月八日	長帳	503
166	人馬賃銭并諸品割当差引簿	明治十年丑十月	長帳	504
167	拂帳	明治十年十月十一日	長帳	505
168	後備歩兵五大隊凱旋通行ニ付各村へ蒲団当附根帳　山家駅出張扱所	明治十年十月十一日	長帳	506
169	後備隊止泊諸入費差引簿	明治十年丑十月十二日	長帳	507
170	小倉台兵止泊入費仕拂控	明治十年丑十月廿日	長帳	508
171	［書状］阿志岐村斉田徳作、三小区扱所小山田（蔀）	（明治十年）十月十五日	継紙	509
172	小倉十四聯隊一大隊二大隊合併御止泊賄簿山家駅出張役所	明治十年丑十月廿日	長帳	510
173	小倉台兵止泊ニ付蒲団人馬觸付簿十四聯隊一大隊二大隊合併	明治十年丑十月廿日	長帳	511
174	山家駅止泊遊撃隊第四大隊賄簿	明治十年十月八日夕	長帳	512
175	遊撃四大隊凱陣達宿割帳	明治十年十月八日泊り	長帳	513
176	［壱番十隊～八番十隊、宿割帳］	（明治十年）	長帳	514

番号	史料名	年代	形態	史料番号
◆	**山家村の庄屋・保長・戸長役場関係書類**			
177	御笠郡山家村宗旨御改帳	明治三年三月	書冊	38
178	御称誉廉々調子書上帳	明治三年三月	書冊	39
179	御笠郡山家村人払帳	明治三年三月晦日	書冊	40
180	［明治元年、二年宿元罷出未進判ノ者書上］	明治四年正月	書綴	41
181	［明治元、二、三年宿罷出未進判ノ者書上］	明治四年三月	書綴	42
182	［去ル十九年丑以来欠落者名元書上］	明治四年三月	書綴	43
183	戸籍取調子案	明治四年辛未九月	書冊	44
184	御笠郡山家村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	明治四年十月	書冊	45
185	御笠郡山家村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	明治四年辛未十一月	書綴	46
186	［戸籍草案］五番	（明治四年）	書綴	47
187	［戸籍草案］六番町西側属衆迄	（明治四年）	書綴	48
188	［壬申戸籍草案の一部］　梅田茂苗ほか	（明治四年）	書綴	49
189	除籍証拠之事　中牟田村庄屋税田武八	（明治五年）壬申正月	竪紙	50
190	［嘉永七年以来脱籍者名元書上］	明治五年壬申五月	書綴	51
191	［御笠郡山家村壬申戸籍草稿］近藤恕一郎～田中宗四郎	（明治五年）	書綴	52
192	［御笠郡山家村役宅居住の者書上］	（明治五年）	書綴	53
193	改置府県概表　仝	明治五年壬申九月写之	書冊	54
194	元御代官屋敷畝高絵図入	明治五年壬申十月十一日	絵図５枚	55
195	御笠郡山家村大縄場小前帳	明治五年壬申十一月	書綴	56
196	犯罪書	明治六年第七月	書冊	57
197	御笠郡山家村明細帳写	明治七年戌三月写	書冊	58
198	何郡何村人払帳		書冊	59
199	地券渡奉願候事　御笠郡山家村		書綴	60
200	地券御願帳　壱　御笠郡山家村（上西）	明治五年壬申十一月	書冊	61
201	地券御願帳　御笠郡山家村（下西）	明治五年壬申十一月	書冊	62
202	地券御願帳　三　御笠郡山家村（町分）	明治五年壬申十一月	書冊	63
203	地券御願帳　又ノ三　御笠郡山家村（町分）	明治五年壬申十一月	書冊	64
204	地券御願帳　御笠郡山家村（町分）	明治五年壬申十一月	書冊	65
205	地券御願帳　四　御笠郡山家村（村分）	明治五年壬申十一月	書冊	66
206	地券御願帳　五　御笠郡山家村（村分）	明治五年壬申十一月	書冊	67
207	地券御願帳　六　御笠郡山家村（村分）（付紙十一冊之内六番）	明治五年壬申十一月	書冊	68

番号	史料名	年代	形態	史料番号
208	地券御願帳　七　御笠郡山家村（村分）（付紙一十冊之内七番）	明治五年壬申十一月	書冊	69
209	面役帳認案		書綴	70
210	米銭諸指出間通　山家村	明治五年申正月	長帳	119
211	貢米津出帳　満生武四郎	明治五年壬申十一月	長帳	120
212	明治十年丑～面徭銭受払簿	明治十年	長帳	121
213	村会入費録　山家村		長帳	122
214	畑宅地各種税六歩取立庭帳	明治十年十月	長帳	123
215	定普請夫割諸品割附帳	明治十年丑六月十三日	長帳	124
216	井手川定普請諸品割方帳	明治九年子四月十五日	長帳	125
217	明治二年巳正月～産子月々書上帳	明治二年正月	長帳	126
218	御年貢米直計指引控帳	明治三年午九月吉日	長帳	127
219	御年貢米蔵入勘定帳	明治三年午九月吉日	長帳	128
220	貢米大豆引附飯　村分	明治五年申九月	長帳	129
221	役場日誌控帳	明治五六年申酉正月吉日	長帳	130
222	村用金穀証拠帳	明治五年申正月吉日	長帳	131
223	諸御通方控	明治五年申正月吉日	長帳	132
224	役場日誌控帳	明治四年未正月吉日	長帳	133
225	邑役出務廻口控　邑継盲僧控	明治四年正月吉日	長帳	134
226	邑役出務廻口控　邑継盲僧控	明治五年申正月吉日	長帳	135
227	諸願諸伺諸差出通帳　御笠郡山家村	明治五年壬申五月	長帳	136
228	願伺書類納間通　山家村保長満生武四郎	明治十年六月	長帳	137
229	願伺諸書納間通　第八大区三小区山家村保長満生武四郎	明治十一年五月	長帳	138
230	願伺届間通　第壱号　御笠郡山家村戸長満生武四郎	明治十二年一月	長帳	139
231	願伺届書進達間通　第弐号　御笠郡山家村	明治十二年一月	長帳	140
232	願伺諸進達間通　第三号　御笠郡山家村	明治十二年四月	長帳	141
233	願伺諸進達間通　第壱号　御笠郡山家村	明治十三年一月	長帳	142
234	請願伺進達間通　第弐号　山家村役場	明治十三年一月	長帳	143
235	請願伺届進達間通　第壱号　御笠郡山家村	明治十四年一月	長帳	144
236	諸願伺届進達間通　第弐号　御笠郡山家村	明治十四年一月	長帳	145
237	諸願伺届進達間通　第三号　御笠郡山家村	明治十四年一月	長帳	146
238	諸願伺届進達間通　第壱号　御笠郡山家村	明治十五年一月	長帳	147

番号	史料名	年代	形態	史料番号
239	諸願伺届進達間通　第弐号　御笠郡山家村	明治十五年一月	長帳	148
240	番米受立帳　町村分	明次五年	長帳	149
241	名寄調子用店方通　役場	明治五年申正月	長帳	150
242	畠方高入帳	明治五年壬申八月	長帳	151
243	田方高入帳	明治五壬申年	長帳	152
244	田方高出帳	明治五壬申年	長帳	153
245	畠方高出帳	明治五年壬申八月	長帳	154
246	貢米大豆引附帳　宿分	明治五年申九月	長帳	155
247	御券札為替現受取控	明治四年未九月吉日	長帳	156
248	未進米差引帳　午・未・申年分	明治三～五年	書綴	157
249	間欠帳		書綴	158
250	未進取約上納前合欠金指引帳	明治五年	書綴	159
251	地券取調子書出帳　四番隊道徳組	明治五年壬申神無月日	長帳	160
252	山王宮御座一式控　筑前国御笠郡山家宿 松尾屋武四郎	嘉永二年	書綴	161
253	貢租引附根帳　宿分	明治六年酉十一月	長帳	162
254	当村借財差引根帳　満生氏	自明治三午至明治六酉	長帳	163
255	当村借財差引帳　再調子根帳	自明治三年至明治六酉六月	長帳	164
256	面徭割方下調帳　山家村保長 平山又三郎ほか	明治十一年寅十一月十九日	長帳	165
257	面役出夫当附根帳　山家駅分	明治十一年分	長帳	166
258	面徭出夫当附根簿　役場	明治十二年己卯二月	長帳	167
259	面徭出夫当附根簿　山家村役場	明治十三年～至十四年	長帳	168
260	面徭小舞当附根簿　山家村役場	明治十三年庚辰二月～ 十四年辛巳二月	長帳	169
261	走番廻口帳	明治十一年一月～	長帳	170
262	諸方状持間通　山家村役場	明治十二年二月廿六日	小横帳	171
263	部分木植附戸数調簿　役場	明治十三年卯三月	書綴	172
264	村社西福寺円通院学校営繕出夫控	明治十二年四月	書綴	173
265	戸籍番取調根帳　山家村	（明治四年）	長帳	174
266	屋敷地所書抜帳　山家村	明治四年未十月	長帳	175
267	［戸籍番取調根帳］	明治四年	長帳	176
268	［民費割付帳］山家宿分		長帳	177
269	［改正地租］山家村分		長帳	178

番号	史料名	年代	形態	史料番号
270	商税写帳	明治十年丑一月～六月迄	長帳	179
271	諸願指出控　山家村庄屋山田芳作	明治三年午正月吉日	縦帳	191
272	諸願指出控　山家村庄屋武四郎	明治三年午十月	縦帳	192
273	諸願指出控　山家村庄屋満生武四郎	明治五年申正月吉日	縦帳	193
274	御布達写　満生武四郎在勤中	明治十年六月十五日～	縦帳	194
275	面役割根帳	明治五年申正月廿六日改	長帳	195
276	御先触札引替通	慶応四年辰正月吉日	小横帳	229
277	講帳　発起山家宿弥右衛門・茂右衛門		書冊	230
278	［講帳］前半欠	明治四年	書冊	231
279	［人柄受払帳］山家村庄屋満生武四郎	明治四年七月～五年二月	書綴	232
280	戸籍総計職分総計寄留総計　山家村役場控		書綴	233
281	脱籍書上控　山家村　己巳以前之分	明治五年壬申五月十日	書冊	234
282	［戸籍編製規則］	明治四年辛未九月	書綴	235
283	［佐賀の乱聞書］　福岡県士族郡新之助		書綴	236
284	山家村田畠名寄帳　三　西山分	文政九年戌八月改之	書冊	237
285	山家村田畠名寄帳　三冊之内三番　西山分	文政五年午六月改之	書冊	238
286	名寄帳　西山分	享和元年酉四月	書冊	239
287	御笠郡阿志岐触山家村山坪数　榜示書上帳	安政四年巳二月	長帳	240
288	御免用井樋唐戸軸帳　御笠郡天山村	文化九年申九月	長帳	241
289	田方畝高名寄帳　一ノ上	明治二年巳八月	書冊	242
290	田方畝高名寄帳　一ノ下	明治二年巳八月	書冊	243
291	田方畝高名寄帳　弐ノ上	明治二年巳八月	書冊	244
292	田方畝高名寄帳　弐ノ下	明治二年巳八月	書冊	245
293	御達書写　満生氏蔵書	慶応四年辰二月	書冊	246
294	御大倹触達書写	明治二年巳六月	書冊	247
295	通古賀触村々諸上納之内今般凶年備郡囲上納御免被仰付分米銀帳	午十月	書冊	248
296	人柄受払帳　山家村庄屋満生武四郎	明治四年未正月	書冊	249
297	諸願心得書	明治四年未正月	書冊	250
298	人柄出入根帳　山家村	明治五年壬申二月～	書冊	251
299	御免用普請所仕廻目録書上控　山家村庄屋満生武四郎	明治五壬申四月	書冊	252
300	一揆暴行有無取調書上帳控　山家村浦下組	明治六年酉七月中二日	書冊	253
301	出児転移死亡届控　満生武四郎用	明治十年七月	書冊	254

番号	史料名	年代	形態	史料番号
302	諸事控（大区通達）第八大区々長石野寛平	明治十一年一月～	書冊	255
303	商業願綴　第八大区三小区山家村	明治十一年三月～十二年四月	書綴	256
304	地税収徴簿　三小区山家村　宿分	明治十一年分	書冊	257
305	地税収徴簿　三小区山家村　村分	明治十一年分	書冊	258
306	地税収徴簿　三小区山家村　西山分	明治十一年分	書冊	259
307	地方税共力費収徴簿　山家　宿分	明治十一年度分、十二年一月	書冊	260
308	地方税共力費収徴簿　山家　村分	明治十一年度分、十二年一月	書冊	261
309	地方税共力費収徴簿　山家　下西山分	明治十一年度分、十二年一月	書冊	262
310	地方税共力費収徴簿　山家　西山分	明治十一年度分、十二年一月	書冊	263
311	地方税収徴簿　山家村下西山分	明治十一年分	書冊	264
312	村費収納簿　山家役場	明治十一年寅	書冊	265
313	村費割方根帳	明治十一寅年	長帳	266
314	秣場税収徴簿　山家村　宿分	明治十一年	書冊	267
315	秣場税収徴簿　山家村　西山分	明治十一年	書冊	268
316	秣場税収徴簿　山家村　村分	明治十一年	書冊	269
317	御布達願伺集	明治十一年六月～十二年十月	書冊	270
318	明治十二年秣場税収徴簿　山家村　宿分		書冊	271
319	明治十二年秣場税及林税収徴簿　山家村 村分		書冊	272
320	明治十二年秣場税収徴簿　山家村　西山		書冊	273
321	明治十二年分地租収徴簿　山家村　宿分		書冊	274
322	明治十二年分地租収徴簿　山家村　村分		書冊	275
323	明治十三年分地租収徴簿　山家村　上西山		書冊	276
324	明治十二年分地租収徴簿　山家村　下西山		書冊	277
325	地方税協議費収徴簿　山家村　宿分	明治十二年十二月	書冊	278
326	地方税協議費収徴簿　山家村　村分	明治十二年十二月	書冊	279
327	地方税協議費収徴簿　山家村　下西山	明治十二年十二月	書冊	280
328	地方税協議費収徴簿　山家村役場　宿分	明治十二年七月	書冊	281
329	地方税協議費収徴簿　山家村役場　宿分	明治十二年七月	書冊	282
330	地方税協議費収徴簿　山家村役場　村分	明治十二年七月	書冊	283
331	地方税共議費徴収簿　山家村上西山	明治十二年七月	書冊	284
332	地方税協議費収徴簿　山家村上西山	明治十二年十二月	書冊	285
333	地方税共議費徴収簿　山家村下西山	明治十二年七月	書冊	286

番号	史料名	年代	形態	史料番号
334	明治十二年共力費徴収簿（一月分） 山家村宿分		書冊	287
335	明治十二年度分地方税割符原簿 山家村		書冊	288
336	作道造夫割根帳	明治十二年	長帳	289
337	明治十二年九月～上申控 山家村役場		書冊	290
338	地方税協議 戸係 山家村 上西山分		書冊	291
339	出生死亡届 山家役場	（明治十一年）寅十二月分、卯一月分共	書綴	292
340	県庁郡役所布達綴	（明治十二年）	書冊	293
341	明治十三年諸庁布達集 山家村役所		書冊	294
342	協議費度々賦課根帳	明治十三年～十六年	書冊	295
343	明治十三年地租収徴簿 山家村 上西山		書冊	296
344	明治十三年地租収徴簿 山家村 下西山		書冊	297
345	明治十三年地租収徴簿 山家村 村分		書冊	298
346	明治十三年地租収徴簿 山家村 宿分		書冊	299
347	秣場税収徴簿 山家村上西山	明治十三年	書冊	300
348	秣場税収徴簿 山家村下西山	明治十三年	書冊	301
349	秣場税収入簿 山家村々分	明治十三年	書冊	302
350	秣場税収徴簿 山家村宿分	明治十三年	書冊	303
351	協議費収徴簿 山家村上西山分	明治十三年二月	書冊	304
352	協議費収徴簿 山家村下西山分	明治十三年二月	書冊	305
353	協議賓収徴簿 山家村 村分	明治十三年二月	書冊	306
354	協議費収徴簿 山家村 宿分	明治十三年二月	書冊	307
355	学校費協議費収徴簿 山家村上西山	明治十三年五月廿一日	書冊	308
356	学校費協議費収徴簿 山家村 村分	明治十三年五月廿一日	書冊	309
357	学校費協議費収徴簿 山家村 宿分	明治十三年五月廿一日	書冊	310
358	明治十三年度地方税徴収簿 上西山	辰六月、同十一月	書冊	311
359	明治十三年度地方税徴収簿 村分	辰六月、同十一月	書冊	312
360	明治十三年度地方税徴収簿 宿分	辰六月、同十一月	書冊	313
361	明治十三年度前期三郡協議費村協議費学校費収徴簿 山家村宿分	明治十三年辰十月七日	書冊	314
362	明治十三年度前期三郡協議費村協議費学校費収徴簿 山家村上西山分	明治十三年辰十月七日	書冊	315

番号	史料名	年代	形態	史料番号
363	明治十三年後期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家村役場上西山分	明治十四年巳一月十九日	書冊	316
364	議案（学校費ほか）		書綴	317
365	地方税協議費賦課根帳	明治十三年分	書冊	318
366	旧未納取調帳	明治九年～十五年	書冊	319
367	地方税協議費収徴簿　山家村　宿分	明治十二年十二月	書冊	320
368	県庁郡役所上申控　山家村戸長 満生武四郎	明治十三年三月～十五年十月	書冊	321
369	官林反別書上帳　第十二大区山家村ほか		書冊	322
370	明治十三年度地方税徴収簿　下西山	明治十三年辰六月、同十一月	書冊	323
371	明治十三年度前期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家村下西	明治十三年辰十月七日	書冊	324
372	明治十三年度前期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家　村分	明治十三年辰十月七日	書冊	325
373	明治十三年後期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家村役場　下西山分	明治十四年巳一月十九日	書冊	326
374	明治十三年後期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家村役場　村分	明治十四年巳一月十九日	書冊	327
375	明治十三年後期三郡協議費村協議費 学校費収徴簿　山家村役場　宿分	明治十四年巳一月十九日	書冊	328
376	［脱籍者除籍願］山家村庄屋満生武四郎	明治五年二月	書綴	330
377	［井手普請届］山家村庄屋満生武四郎	明治五年壬申三月	書綴	331
378	［御笠郡山家村明細］　二十三区御笠郡山家村		書綴	332
379	［中垣水吐石井手普請］	明治五年壬申春	書綴	333
380	［溜池塘口樋仕替普請願］　筑前御笠郡山家村		書綴	334
381	鉄砲免許願控　福岡県庁	明治五年壬申八月五日	書綴	335
382	破免　壱作稲作規則　山家村副戸長 満生武四郎	明治五年壬申九月	書冊	336
383	［村町境等へ建置榜示杭ニ付達］ 沢権令　塩谷参事	明治六年四月	書綴	337
384	学費之儀ニ付村会開催通知書　山家村役場	明治十六年八月九日	書綴	338
385	福岡県筑前国第八大区三小区戸籍之部分之 部職分之部他管轄へ寄留之部書上		長帳	339
386	種痘之者名書上帳　宿分保長塚本定七	明治十年三月十八日	長帳	340

番号	史料名	年代	形態	史料番号
387	免割根帳　山家村　宿分	明治六年酉一月	長帳	341
388	同僚書翰　山家村戸長満生武四郎	明治十三年三月～十七年六月	書綴	342
389	御笠郡山家村より仕上ル指出之事	慶応三年三月～明治四年二月		343
390	去十九年　丑以来欠落之者書上控 山家村庄屋	明治四年未三月廿五日	書冊	344
391	学校費協議費収徴簿　山家村下西山	明治十三年五月廿一日	書冊	345
392	士族卒平民従前拝領山証文預り山等 福岡県庁	壬申八月	書綴	346
393	人力車奉願覚　第十二大区山家村　上滝利平	明治六年三月	書綴	347
394	当壬申貢米之内代銀納奉願上ル事　山家村	明治五年壬申九月	長帳	348
395	山家村辛未戸籍　50番屋敷～158番屋敷	明治四年	書冊	350
396	明治十四年度後期三郡土木費村協議費 収徴簿　宿分	明治十五年一月	書冊	351
397	明治十四年度後期三郡土木費村協議費 収徴簿　上西山分	明治十五年一月	書冊	352
398	明治十五年秣場税収徴簿　山家村 下西山分		書冊	353
399	明治十五年秣場税収徴簿　山家村 上西山分		書冊	354
400	明治十五年秣場税収徴簿　山家村 村宿分		書冊	355
401	明治十五年度前半額地方税及貯蓄金納簿	明治十五年六月、同年十一月	書冊	356
402	明治十六年秣場税収徴簿　山家村 下西山分	明治十六年八月	書冊	357
403	明治十四年度前期三郡土木費郡中土木費 村協議費収徴簿　上西山分	明治十四年巳九月	書冊	358
404	明治十四年度前期三郡土木費郡中土木費 村協議費収徴簿村分	明治十四年巳九月	書冊	359
405	未納取調簿　山家村戸長役場	明治十三年一月～十四年二月	書冊	360
406	明治十四年度前期三郡土木費郡中土木費 村協議費収徴簿　下西山分	明治十四年巳九月	書冊	361
407	明治十四年地租収徴簿　山家村下西山		書冊	362
408	明治十四年秣場税収徴簿　山家村　村分		書冊	363
409	明治十四年地租収徴簿　山家村　宿分		書冊	364

番号	史料名	年代	形態	史料番号
410	明治十四年度地方税　貯蓄金収入簿　明治十四年後半額収納簿　村分	明治十四年巳七月、同十二月	書冊	365
411	明治十四年度地方税　貯蓄金収入簿　明治十四年後半額収納簿　宿分	明治十四年巳七月、同十二月	書冊	366
412	明治十四年度前期三郡土木費郡中土木費村協議費収徴簿　宿分	明治十四年巳九月	書冊	367
413	明治十四年度後期三郡土木費村協議費収徴簿　下西山分	明治十五年一月	書冊	368
414	明治十四年秣場税収徴簿　山家村上西分		書冊	369
415	諸庁布達集　山家村役場	明治十四年	書冊	370
416	明治十四年地租収徴簿　山家村上西山		書冊	371
417	村会々議之節決議時々書留録	明治十四年九月十七日～十九日	書柵	372
418	明治十四年度地方税　貯蓄金徴収簿　上西山分	巳七月、同十二月	書柵	373
419	明治十四年度村会決議録		書冊	374
420	明治十四年度地方税　貯蓄金収入簿　下西山分	巳七月・同十一月	書冊	375
421	明治十四年度後期三郡土木費村協議費収徴簿　村分	明治十五年一月	書冊	376
422	明治十四年秣場税収徴簿　山家村　宿分		書冊	377
423	明治十四年地租収徴簿　山家村　村分		書冊	378
424	願伺金銭納間通　御笠郡山家村	明治十三年一月	書冊	379
425	願伺金銭納間通　御笠郡山家村	明治十五年六月	書冊	380
426	願伺金銭納間通　御笠郡山家村	明治十七年一月	書冊	381
427	発着簿　御笠郡山家村役場	明治十五年十月一日～	書冊	382
428	発着簿　御笠郡山家村役場	明治十五年十月一日～	書冊	383
429	発着簿　御笠郡山家村役場	明治十六年八月	書冊	384
430	発着簿　御笠郡山家村役場	明治十六年八月	書冊	385
431	［山家村御年貢蔵斗家書上］　山家村庄屋　山田得右衛門	慶応元年八月	書綴	386
432	［山家村家数牛馬数その他書上］　山家村		書綴	387
433	勤要録　第八大区三小区山家村満生武四郎		小横帳	388
434	懐中要録　満生武四郎	明治十年六月～十二年九月	小横帳	389

番号	史料名	年代	形態	史料番号
435	懐中要録　山家村満生氏	明治十二年四月十五日 ～十五年四月三十日	小帳	390
436	小廻当附帳　谷町組	明治十一年旧正月二十五日～	小横帳	391
437	小廻当附帳　新町組	明治十一年分旧正月二十五日～	小横帳	392
438	年令操出早引　満生武四郎用	明治十二年卯改	小横帳	393
439	組長出勤簿	明治十三年	小横帳	394
440	諸品通　役場	明治十五年午九月	小横帳	396
441	明治十二年分一期二分納収徴場帳 山家村役場		書冊	397
442	明治十二年各種五歩収徴場帳、弐期納 山家村役場		書冊	398
443	明治十二年三期畑各種三歩納収徴場帳 山家村役場		書冊	399
444	明治十二年分地租五分納税金収徴場帳 山家村役場	明治十二年十二月	書冊	400
445	明治十二年分租税五期三分納収徴 山家村役場	明治十三年三月十五日	書冊	401
446	明治十二年分地租六期田方弐歩納場簿 山家村役場		書冊	402
447	地方税共議費徴収場簿　山家村役場	明治十二年七月二十三日	書冊	403
448	地方税協議費徴収場帳　山家村役場	明治十二年十二月	書冊	404
449	協議費場簿　役場	明治十三年二月	書冊	405
450	協議費場簿　役場	明治十三年五月	書冊	406
451	地方税場簿　役場	明治十三年六月	書冊	407
452	明治十三年度後半期地方税　役場	十一月二十六日	書冊	408
453	地租壱期納場帳　山家村役場	明治十三年八月	書冊	409
454	明治十三年十月二期各種五歩納場簿秣場税共 山家村役場		書冊	410
455	明治十三年度各種三期三分納　役場	十一月二十五日	書冊	411
456	明治十三年度四期五歩納収簿	明治十四年一月八日	書冊	412
457	明治十三年度五期三分納収徴簿　役場	明治十四年三月	書冊	413
458	明治十三年度六期弐分納場簿　役場	明治十四年四月	書冊	414
459	明治十三年度前期収入簿	十月十日	書冊	415
460	明治十三年度後半額協議費場簿　戸長役場	明治十四年一月	書冊	416

番号	史料名	年代	形態	史料番号
461	地税証印税納控	明治十四年二月～	書冊	417
462	明治十四年度地方税　貯蓄金収入庭簿　役場	巳七月廿四日	書冊	418
463	明治十四年度地方税収納場簿　役場	巳十二月	書冊	419
464	明治十四年地租一期各種五歩納場簿 山家村役場	明治十四年八月	書冊	420
465	明治十四年分地租各種五歩納第二期収納場帳 役場		書冊	421
466	明治十四年分地租田方五歩納第二期収納場簿 役場		書冊	422
467	明治十四年分地租田方五歩納第四期収納場簿 役場		書冊	423
468	明治十四年度前期半額協議費場簿　役場	明治十四年九月	書冊	424
469	明治十四年度後半額協議費場簿　役場	明治十五年一月	書冊	425
470	明治十五年度前半額地方税及貯蓄金収徴簿 山家村役場　後半額地方税収徴簿　上西山分	明治十五年六月	書冊	426
471	明治十五年度前半期民費学費土木費収徴場簿 山家村役場	明治十五年八月	書冊	427
472	明治十五年度後半額地方税収徴簿 山家村役場	明治十五年十一月	書冊	428
473	十四年度臨時土木費　十五年度土木会費 三郡及本郡協議費場簿		書冊	429
474	十五年度学校費後期分場簿　山家村役場	明治十六年一月	書冊	430
475	明治十五年地租第一期五分納場簿 山家村役場	明治十五年八月	書冊	431
476	明治十五年度第二期各種五歩納場簿 山家村役場	明治十五年十月	書冊	432
477	明治十五年度第三期田方五歩納場簿 山家村役場		書冊	433
478	明治十五年度地租四期田方五歩納収徴場簿 山家村役場	明治十六年二月	書冊	434
479	明治十六年度前半期地方税及学校費貯蓄金 十五年度村協議費庭簿　山家村役場	明治十六年六月	書冊	435
480	明治十六年度後半期地方税同三郡協議費 郡協議費土木会費学費収徴場簿　山家村役場	明治十六年十二月	書冊	436

番号	史料名	年代	形態	史料番号
481	明治十六年第一期畑各種五分納収徴簿　山家村役場	明治十六年八月	書冊	437
482	明治十六年第二期畑各種五分納収徴場簿　山家村役場	明治十六年十月	書冊	438
483	明治十六年度第四期田方地租金収徴場簿　山家村役場	明治十七年三月	書冊	439
484	明治十七年度前半額地方税及貯蓄金徴収場簿　山家村役場	十七年六月	書冊	440
485	引譲帳簿諸品目録　控		書綴	441
486	商業税収徴簿　山家村	明治十二年一月	書冊	442
487	商工税収徴根簿　山家村役場	明治十二年四月	書冊	443
488	明治十二年度分学校費協議費出納表根簿　戸長満生武四郎		書冊	444
489	協議費出納簿	明治十二年七月徴収分～	書冊	445
490	村会出席名簿	明治十二年二月十五日～	書冊	446
491	明治十二年度協議費明細表草稿書上根控共役場		書冊	447
492	商業税県税半額収納簿	明治十二年卯十二月	書冊	448
493	商業税雑種税収簿　戸長役場	明治十三年辰七月廿二日	書冊	449
494	地券台帳諸費賦課根簿　山家村役場	明治十三年十月	書冊	450
495	協議費出納簿　山家村役場	明治十三年度分	書冊	451
496	議員出席簿　山家村村会	明治十三年三月～十月	書冊	452
497	明治十三年度前期村会決議録		書冊	453
498	筑前共愛会寄付金簿	明治十三年九月	書冊	454
499	明治十三年度議案決議録　役場控		書冊	455
500	村会決議録　山家村役場	明治十三年九月	書冊	456
501	学校費・協議費出納表　山家村役場	明治十二年度分	書冊	457
502	商業雑種税収徴簿　戸長役場	明治十四年一月	書冊	458
503	商業雑種工税収徴簿　山家村役場	明治十四年七月	書冊	459
504	議員出席簿	明治十四年九月十七日～十五年五月十三日	書冊	460
505	村協議費取調書	明治十五年一月三十日	書綴	461
506	学校費	明治十四年分	書綴	462
507	商業国税地方税徴収簿　山家村役場	明治十五年一月	書冊	463

番号	史料名	年代	形態	史料番号
508	商業国税地方税収徴簿　山家村役場	明治十五年七月	書冊	464
509	明治十五年度村費支出明細書出控	明治十六年九月	書綴	465
510	議員出席簿　山家村	明治十五年七月～、十六年六月～	書冊	466
511	商業国税地方税収徴簿　山家村役場	明治十六年七月	書冊	467
512	商業国税地方税収徴簿　山家村役場	明治十六年一月	書冊	468
513	商業国税地方税収徴簿　山家村役場	明治十七年一月	書冊	469
514	村会決議録	明治十二年二月十五日～	書冊	470
515	代替ニ付地所譲渡地券御書換願　県令渡辺清殿	明治十二年分	書綴	471
516	明治十六年度学費表		罫紙一枚	472
517	不取締ニ付親族ヨリ退隠願　山家村平嶋彦助	明治十七年四月	書綴	473
518	皇太神宮配当根簿　戸長役場	明治十二年卯十二月三十日	書冊	474
519	萬延二年正月より着帯月々書上帳　役場控　山家村庄屋山田得右衛門　養育方波多江善次殿	万延弐年正月～	書綴	515
520	役場出納簿	明治十三年辰一月～十七年七月	書冊	517
521	未納取調帳　山家村戸長役場	明治十五年一月改	書冊	543
522	学校新築費　大小区費欠金　旧学校費収徴簿　上西山分	明治十五年五月	書冊	544
523	学校新築費　大小区費欠金　旧学校費収徴簿　下西山分	明治十五年五月	書冊	545
524	学校新築費　大小区費欠金　旧学校費収徴簿　村分	明治十五年五月	書冊	546
525	学校新築費　大小区費欠金　旧学校費収徴簿　宿分	明治十五年五月	書冊	547
526	明治十五年度前半額地方税貯蓄金収徴簿　下西山分　後半額地方税収徴簿	明治十五年六月、同年十一月	書冊	548
527	明治十五年度前半額地方税貯蓄金収徴簿　村分	明治十五年六十一月	書冊	549
528	明治十五年度前半額地方税貯蓄金収徴簿　宿分	明治十五年六十一月	書冊	550

番号	史料名	年代	形態	史料番号
529	明治十五年度前半期学費民費土木費収徴簿　上西山分	明治十五年八月	書冊	551
530	明治十五年度前半期学費民費土木費収徴簿　下西山分	明治十五年八月	書冊	552
531	明治十五年度前半期学費民費土木費収徴簿　村分	明治十五年八月	書冊	553
532	明治十五年度前半期学費民費土木費収徴簿　宿分	明治十五年八月	書冊	554
533	明治十五年地租収徴簿　山家村下西山		書冊	555
534	明治十五年地租収徴簿　山家村上西山		書冊	556
535	明治十五年地租収徴簿　山家村村分		書冊	557
536	明治十五年地租収徴簿　山家村宿分		書冊	558
537	明治十五年分六月改地方税其他賦課根帳		書冊	559
538	明治十五年度分協議費議案控　決議モ書込分		書綴	560
539	明治十五年度協議費及諸費　明治十六年六月村会決議録　山家村		書冊	561
540	明治十六年地租収徴簿　山家村上西山		書冊	562
541	明治十六年地租収徴簿　山家村下西山		書冊	563
542	明治十六年地租収徴簿　山家村村分		書冊	564
543	明治十六年地租収徴簿　山家村宿分		書冊	565
544	明治十六年全期地方税学費協議費収徴簿　上西山分	明治十六年六月	書冊	566
545	明治十六年全期地方税学費協議費収徴簿　下西山分	明治十六年六月	書冊	567
546	十六年度前半期地方税及貯蓄金学校費　十五年度　村協議費収徴簿　村分	明治十六年六月	書冊	568
547	十六年度前半期地方税及貯蓄金学校費　十五年度　村協議費収徴簿　山家村宿分	明治十六年六月	書冊	569
548	十六年度後半期地方税及三郡協議費　本郡協議土木費学費徴収簿　山家村上西山	明治十六年十二月	書冊	570
549	十六年度後半期地方税及三郡協議費　本郡協議土木費学費徴収簿　山家村下西山	明治十六年十二月	書冊	571
550	十六年度後半期地方税及三郡協議費　本郡協議土木費学費徴収簿　山家村村分	明治十六年十二月	書冊	572

番号	史料名	年代	形態	史料番号
551	十六年度後半期地方税及三郡協議費 本郡協議土木費学費徴収簿　山家村宿分	明治十六年十二月	書冊	573
552	十六年度後半期学費本郡協議費徴収場簿 山家村役場	明治十七年四月	書冊	574
553	十六年度後半額学費本郡協議費徴収簿 山家村村分	明治十七年四月	書冊	575
554	十六年度後半額学費本郡協議費徴収簿 山家村宿分	明治十七年四月	書冊	576
555	御年貢米大豆御徳割帳　西山分	弘化二年乙巳六月改ル	長帳	577
556	山家村御年貢米大豆引付帳　宿分	明治二年巳九月	長帳	578
557	御年貢米大豆諸払勘定帳	明治三年午九月吉日	長帳	579
558	未進米取立帳	明治三年午	長帳	580
559	山家村貢米大豆引付帳	明治四年未九月	長帳	581
560	役場金銭請払		長帳	582
561	癸酉貢租石代大約帳		長帳	583
562	諸口立用破免割下ケ古来納差引書抜　宿分	明治六年酉分	長帳	584
563	役場日誌控帳　散使請持　山家長山田芳作	明治三年午正月吉日	小横帳	585
564	諸御通方控帳	明治三年午正月吉日	小横帳	586
565	邑役出勤巡口控帳　邑継盲僧控帳	明治三年午正月吉日	小横帳	587
566	諸御用控帳	明治三年午正月吉日	小横帳	588
567	村分畠ノ上		書綴	589
568	両西山新田ホノケ寄		書綴	590
569	宿村田畑字寄番号調子帳		書綴	591
570	両西山田畑ホノケ寄		書綴	592
571	宿村稲作ほのけ寄帳		書綴	593
572	［山家村田畠書上帳］		長帳	594
573	四条陸軍少将様為巡察使日田県え御下向に付 潜伏之者為取締那珂郡在住之士出張に付止宿控	明治四年未三月十四日より	書冊	595
574	秣場税取立帳　山家駅分	明治九十両年分	書冊	596
575	秣場税金賦課簿　山家村三組山田保長	明治十一年寅七月改メ	書冊	597
576	民費上納間通　保長満生武四郎	明治十年七八九月	小横帳	598
577	冬期民費未納之者		書綴	599
578	軍夫行之者六拾銭先納分差引帳		書冊	600

番号	史料名	年代	形態	史料番号
579	明治十年村費并土木調費割方写簿 満生武四郎分	十一年一月十二日池田にて	書冊	601
580	明治十年村費并土木調費割方根簿	明治十一年一月十二日 於池田割方	書冊	602
581	商業税之内納間通　三小区扱所御中 山家村保長満生武四郎	明治十年七月	長帳	603
582	畑宅地各種四歩及民費戸掛取立庭帳 三小区山家村宿分	明治十年十二月五日分	書冊	604
583	無地之人名戸掛収徴簿　三小区扱所	明治十一年分	書冊	605
584	各種二期五歩納取立場帳	明治十一年十月二十三日	書冊	606
585	土木修繕費出納　学校新築費出納簿	明治十五年五月	書冊	607
586	面徭出夫当付根簿　御笠郡山家村役場	明治十五年壬午三月	書冊	608
587	役場日計簿	明治十一年申一月	書冊	609
588	明治九年村臨時取立帳　保長塚本定七	明治十年一月二十三日	書冊	610
589	大区割扱所取立銭書抜帳	明治九年四月～十年三月迄	書冊	611
590	取立庭帳　保長満生武四郎	九年四月～十年六月迄分	書冊	612
591	県用費并四月より六月迄概算民費取立帳 山家村宿分三小区扱所		書冊	613
592	雑税不納取調帳　保長満生武四郎	明治九年四月～十年六月迄	書冊	614
593	雑税不納分納通　保長満生武四郎 三小区扱所御中	明治九年四月～十年三月迄之分	書冊	615
594	民費未納約帳	明治九年ヨリ同十一年迄	書冊	616
595	調所及小区村費賦課帳　山家村宿分 四小区扱所	明治九年四月～九月	書冊	617
596	塚本より受付分［民費県庁病院新築費］	明治九年四月～	書冊	618
597	雑税納間通山家村保長満生武四郎 三小区扱所御中	（明治十年四月～六月迄）	書冊	619
598	明治十年夏秋決算冬季民費収徴簿　山家宿分 三小区扱所		長帳	620
599	地券未済之切開田畑林薮池などの印税金 取立帳	明治十年八月	長帳	621
600	諸民費上納未納書抜帳	明治十年	長帳	622
601	旧地券証枚数取立控帳	明治十年九月	長帳	623
602	新地券証渡方受取帳　倉岡久平次～神崎甚三	明治十一年	長帳	624

番号	史料名	年代	形態	史料番号
603	県庁新築費并病院費切立根帳　三小区山家村宿分	明治十年三月	長帳	625
604	明治十年地券税　同十一年概算民費取立根帳山家両西山分		長帳	626
605	明治十年分村費并土木費取立帳　宿分	明治十一年一月十二日	長帳	627
606	民費不納名寄帳	明治九年～十一年	長帳	628
607	民費不納外前納立用分控	明治十年七八九	長帳	629
608	田方五歩納村費取立場帳　宿分	明治十一年一月	長帳	630
609	明治十一年一期各種二分納収入并冬季民費取立場帳　山家駅分		長帳	631
610	田方五期三歩納及夏季民費場帳	明治十一年三月二十日	長帳	632
611	六期田方二歩納取立場帳	明治十一年寅四月二十日	長帳	633
612	秣場税収徴場簿	明治十一年分	長帳	634
613	三期各種三歩納取立場帳　山家村宿分	明治十一年分十二月十日	長帳	635
614	明治十一年秋民費　明治十年地租五歩一半高貸付分取立帳		長帳	636
615	実印注文控	明治十一年八月	長帳	637
616	県庁病院新築費納間通　山家村保長満生武四郎　三小区扱所御中	七八月	長帳	638
617	面役当付伍長日記　保長平山又三郎用［池田・道徳・小古野組］	明治十一年二月二十四日	長帳	639
618	明治十一年分五期田方三歩及民費収徴庭帳山家村役場		長帳	640
619	面徭小廻当付根簿　役場　一之組～九之組地租田	明治十二年己卯二月	長帳	641
620	地租田方五歩納村費民費場簿　山家村	明治十二年卯一月	長帳	642
621	山家村御年貢米大豆引付帳　村分	明治二年巳九月	長帳	643
622	難渋百姓御調子に付軒数人数書上帳	明治三年午八月改	長帳	644
623	米銭諸指出間通　山家村触口御役場	明治三年午十月	長帳	645
624	御笠郡山家村御徳割帳一　三冊の内　山家触	明治三年六月	長帳	646
625	御笠郡山家村御徳割帳三　三冊の内　山家触	明治三年六月	長帳	647
626	明治三年午春夏救切に付御賞誉		横折	648
627	面銭割方根帳	明治三年分午十一月四日	長帳	649
628	諸方状持控帳	明治三年午正月吉日	長帳	650

番号	史料名	年代	形態	史料番号
629	古畠畝高書抜帳　山家村	明治三年午七月	長帳	651
630	古未進并当未進米書抜帳	明治三年午十月	長帳	652
631	村用金銭証拠帳	明治三年午正月吉日	長帳	653
632	御年貢米津出根帳	明治三年午九月吉日	長帳	654
633	御指紙売払勘定帳	明治三年午十月	長帳	655
634	社倉御備米借状帳　現渡控　山家村	明治四年未四月	長帳	656
635	明治四年分諸上納銀取立帳	辛未十一月	長帳	657
636	御年貢米蔵入勘定帳	明治四年未九月吉日	長帳	658
637	麦貫控帳	明治四年未五月二十一日	長帳	659
638	御蔵番給米取立帳	明治四年未九月	長帳	660
639	諸方状持控帳	明治四年未正月吉日	長帳	661
640	店方運上銀取立帳	明治四年未十月	長帳	662
641	御笠郡山家村御徳割帳二　三冊の内　原田触	明治四年六月	長帳	663
642	願竹木運上取立帳	明治四年未四月十日限 取立之事	長帳	664
643	諸雑用集	明治四年未正月祥日	長帳	665
644	御納方中走番帳	明治四年辛未九月	長帳	666
645	御蔵番給米取立帳　太田恵七請持	明治四年未九月	長帳	667
646	諸指出間通　御笠郡山家村　福岡御県庁	明治四年未六月	長帳	668
647	石代受取帳	明治五年壬申十月	長帳	669
648	草稿	明治五年壬申正月吉日	長帳	670
649	場帳	明治五年申九月	長帳	671
650	壬申未進癸酉利分共取立帳	明治七年戌七月	長帳	672
651	直計帳	明治五年申九月	長帳	673
652	田方地券願書書上根帳　中村周吉	明治五年壬申十一月	長帳	674
653	地券御願帳　水城篤四郎	申十月	長帳	675
654	田畑地券願池田合計帳　平山畝作	明治五年壬申十一月	長帳	676
655	畑地代金書上根帳　小古野中	明治五年申十月	長帳	677
656	社倉米割方根帳	明治五壬申五月	長帳	678
657	畝高代金惣合計書抜帳	明治五年壬申十一月改	長帳	679
658	年中生死控	明治五壬申年	長帳	680
659	御笠郡山家村面役極帳　山家村庄屋 満生武四郎　福岡御県庁	明治五年申正月	長帳	681
660	壬申分未納書抜帳		長帳	682

番号	史料名	年代	形態	史料番号
661	地代価調入費	明治五年壬申八月	長帳	683
662	古畑奥〆書抜帳			684
663	申年分貢租不納書抜帳　宿分		長帳	685
664	田地代金書上根帳　小古野組中	明治五年申十月	長帳	686
665	地券書上控帳	明治五年壬申十一月	長帳	687
666	地券願書上帳　水城五郎七	壬申十一月	長帳	688
667	田町横町谷町地券願引上帳		長帳	689
668	両西山竿書抜帳		長帳	690
669	地券願書出引上帳　新町分		長帳	691
670	地券願に付地代金打込帳　池田組	明治五年壬申九月	長帳	692
671	畑方地券願書上根帳　中村周吉	明治五年壬申十一月	長帳	693
672	村借受払根帳　午未申年分	明治五年申十二月払入まで	長帳	694
673	諸願諸伺諸差出通　御笠郡山家村 福岡御県庁	明治六年二月	長帳	695
674	地券調子之節畑方高出再調子帳	明治六年三月三日改	長帳	696
675	地券調子之節田方高出再調子帳	明治六年三月三日改	長帳	697
676	耕地結反別名寄帳　町分	明治六年酉十一月	長帳	698
677	古未進取立　酉年改	明治六年酉十二月	長帳	699
678	破免割下勝手作書抜　宿分	明治六年酉分	長帳	700
679	癸酉年分貢租石代過不足書抜帳　町分	明治七年第七月十日改	長帳	701
680	過上米引上帳先納米共	明治七年戌六月	長帳	702
681	年賦米未納分	明治七年戌七月改	長帳	703
682	現反歩入費及境界入費取立不足共取立帳 宿分	明治八年亥十一月	長帳	704
683	亥冬状持賃銭前借根帳	明治九年子旧十二月十日	長帳	705
684	明治二年巳正月より四季懐婦書上帳 山家村　福岡御県庁	明治四年十月	長帳	706
685	明治二年分臨時帳	巳十一月七日	長帳	707
686	巳年未進米指引合欠顕帳		長帳	708
687	巳年村借金受払帳		長帳	709
688	巳年未進酉年受取差引帳		長帳	710
689	村備金取約書抜帳	明治二年巳九月	長帳	711
690	村備金受払帳	明治五年十一月	長帳	712
691	当村借財差引帳	自明治三午至明治六酉	長帳	713

番号	史料名	年代	形態	史料番号
692	御蔵番米取立帳	明治三年午十月九日	長帳	714
693	御納方中走り番帳	明治三年午十月九日	長帳	715
694	明治二年分面銭帳	明治二年巳十一月七日	長帳	716
695	未進仕組講米取立帳　村町	明治三年午十二月	長帳	717
696	古田畝数書抜帳　山家村	明治三年午七月	長帳	718
697	山家村役衆賄星打帳　魚屋弥平分	明治三年午正月	長帳	719
698	献米取立并津出仕払帳	明治三年午十月	長帳	720
699	村備金受払差引帳并修堂金	明治三年	長帳	721
700	福石白米津出引揚帳	明治三年十二月	長帳	722
701	有徳百姓籾囲預込勘定帳	明治三年午正月改	長帳	723
702	［献米寸志員数書上帳］山家村	明治三年九月	長帳	724
703	［献米寸志員数書上帳］山家村上西山分	明治三年九月	長帳	725
704	指紙替控帳	明治三年午十月朔日	長帳	726
705	御笠郡山家村諸証拠納間通	明治三年十二月	長帳	727
706	御笠郡山家村御徳割帳三冊之内二　山家触	明治三年六月	長帳	728
707	麦仕払帳	明治三年午九月改	長帳	729
708	未進当午年払入分約帳	明治三年	長帳	730
709	諸用米銭仕払控	明治三年午十月	長帳	731
710	諸品値段下げ書上帳　山家宿店方中	明治三年閏十月	長帳	732
711	孝心善行農業出精之者御書付控　山家村		長帳	733
712	御膳米撰立配当帳		長帳	734
713	御笠郡山家村早田万作当蒔物畝数書上帳村控	明治三年六月	長帳	735
714	御笠郡山家村早田万作当蒔物畝数書上帳村控	明治四年六月	長帳	736
715	為稼諸方え罷越候者え証拠渡控	明治四年未四月	長帳	737
716	麻売取立根帳	明治四年未六月二十一日	長帳	738
717	御山運上銀取立帳	明治四年未十一月	長帳	739
718	山家村御宿帳	明治四年未九月吉日	長帳	740
719	宿村田畑畝高小〆書抜帳壱番～六番		長帳	741
720	日乞御祈祷備物買物通　役場　店方中	明治四年未四月	長帳	742
721	願竹木上納取立根帳　山家村	明治五年壬申五月	長帳	743
722	貢米搗為替通　山家村役場　二日市谷彦平殿	明治五年壬申十月	長帳	744
723	村町走り番帳	明治五年壬申十月より	長帳	745

番号	史料名	年代	形態	史料番号
724	御村用面銭諸口々書上帳　水城伝吾	明治六年癸酉一月	長帳	746
725	地券調子之節畑方高入再調子帳	明治六年三月三日改	長帳	747
726	地券調子之節田方高入再調子帳	明治六年三月三日改	長帳	748
727	貢租取立名寄帳　宿改分	明治六年癸酉十一月	長帳	749
728	役場日誌	明治十一年	長帳	750
729	小古野字山の口并嶋田石洗堰人足割方帳　役場	明治十三年三月十五日	長帳	751
730	郵便公用発遣間通　山家村役場	明治十七年二月十八日より	長帳	752
731	御笠郡山家村井手川定普請入用諸品御預帳	文政九年戌年改ル	長帳	753
732	御笠郡山家村井手川定普請仕廻目録書上帳	安政四年四月	長帳	754
733	井手川定普請諸品割方取立帳	明治四年未三月	長帳	755
734	井手川定普請諸品割方取立帳　役場　町村両西山分	明治六年酉四月	長帳	756
735	井手川定普請諸品割方取立帳　役場	明治八年亥四月	長帳	757
736	明治九年作道作割方根帳	明治九年十月二十日	長帳	758
737	記［西山分井堰調］	明治十年九月書上前	折紙	759
738	井手川定普請諸品割方帳	明治十年四月十八日	長帳	760
739	井手川定普請諸品割方帳	明治十二年卯四月十一日	長帳	761
740	定普請夫割簿	明治十二年卯五月三十一日	長帳	762
741	定普請夫割簿　役場	明治十三年辰六月十二日（旧五月節句）	長帳	763
742	勘定書上帳　御笠郡山家村近藤利右衛門	明治十三年辰正月	長帳	764
743	井手溝定普請諸品割簿	明治十三年辰四月二十八日	長帳	765
744	明治十四年度面徭割根簿　役場	明治十四年巳二月	長帳	766
745	井手川定普請諸品割付簿　山家村役場	明治十四年巳五月二日	長帳	767
746	定普請諸品割付夫割控	明治十四年六月一日（旧五月五日）	長帳	768
747	井手川定普請諸品割付簿　山家村役場	明治十五年午四月	長帳	769
748	井手川定普請諸品割付簿　山家村役場	明治十六年未四月	長帳	770
749	井手川定普請夫割諸品割付帳	明治十六年六月一日	長帳	771
750	共有地所持主総代人名簿	明治十二年卯一月	書綴	779
751	面役請払帳　山家村庄屋満生武四郎	明治四年未正月	書冊	780
752	面役請払帳　山家村庄屋満生武四郎	明治五年申正月	書冊	781
753	面役請払帳	明治六年一月	書冊	782

番号	史料名	年代	形態	史料番号
754	筑前御笠郡山家村壬申一か年大積取調 副戸長満生武四郎	明治六年三月	書冊	783
755	送籍証　山家村戸長満生武四郎	明治十五年十月	書綴	784
756	百人長山田正三郎軍夫願 第八大区三小区扱所	明治十年六月	書綴	785
757	軍夫願二十人長石井泰三郎	明治十年六月	書綴	786
758	軍夫願二十人長波多江伊蔵	明治十年六月	書綴	787
759	軍夫願二十人長水城正兵衛	明治十年六月	書綴	788
760	軍夫願　三小区筑紫村ほか	明治十年七月	書綴	789
761	鳥獣職猟御免許御鑑札願　松原善次郎ほか	明治十三年九月	書綴	790
762	鳥獣職猟御免許御鑑札願　太田弥右衛門ほか	明治十二年十一月	書綴	791
763	不取締に付親族より退隠願　平嶋弥一郎	明治十七年三月	書綴	792
764	鳥獣職猟御免許御鑑札願　小山田杢平ほか	明治十二年九月	書綴	793
765	官地御払下願　嶋岬	明治十六年五月	書綴	794
766	十五年以上五十年迄面徭高　三小区平等寺村	明治十一年二月		795
767	興行願　平山斧太郎		罫紙	796
768	遊芸師匠諸品触売人届	明治十三年八月	書綴	797
769	大工職人その他書上	明治十三年三月	書綴	798
770	面役払証　阿志岐村組長	明治十二年三月	罫紙	799
771	請証　二日市村戸長	明治十二年三月	罫紙	800
772	請証　永岡村戸長	明治十二年三月	罫紙	801
773	酒造桶調査達　戸長役場　山田勘右衛門 酒井五郎平あて	明治十三年九月	書綴	802
774	他県行願　藤野平吉	明治十五年四月	罫紙	803
775	転業届　吉村勇雄	明治十三年十月	罫紙	804
776	辞職願　平山又三郎	明治十四年三月	罫紙	805
777	他県行願　松原佐七	明治十六年八月	罫紙	806
778	廃業届　太田藤三	明治十二年五月	罫紙	807
779	鶴崎惟近筑紫神社出仕照会	明治十四年十月	罫紙	808
780	戸籍訂正願　外山善次郎	明治十七年五月	罫紙	809
781	離縁願	明治十七年五月	罫紙	810
782	廃業届　杉村俊吉	明治十六年五月	一紙	811
783	放楽噺物真似興行願　神崎卯次郎	明治十五年十二月	書綴	812
784	一時限り演劇場設置願	明治十六年十月	書綴	813

番号	史料名	年代	形態	史料番号
785	宿屋営業願　近藤弥十郎	明治十六年五月	罫紙	814
786	病気に付退隠家督願　満生九郎	明治十五年九月	罫紙	815
787	鳥獣職猟御免許御鑑札願　平山武六ほか	明治十三年十二月	罫紙	816
788	鳥獣職猟御免許御鑑札願　斉田正次郎ほか	明治十三年十二月	罫紙	817
789	鳥獣職猟御免許御鑑札願　斉田正次郎ほか	明治十四年十一月	書綴	818
790	豊年踊興行願　芳野曽平ほか	明治十五年八月	書綴	819
791	地所売買に付地券名換願　平嶋嘉平	明治十七年七月	罫紙	820
792	異動届　小山田杢平	明治十三年十月	罫紙	821
793	営業税雑種税種目取調書　御笠郡山家村	明治十二年五月	書冊	822
794	井堰御願届　古賀伊右衛門	九月	書綴	823
795	御見分書	明治十三年十二月	書綴	824
796	部分木植付届	明治十三年	書綴	825
797	面役受証　穂波郡寿命村伍十長古野久七	明治十二年二月	罫紙	826
798	面役払証　立明寺村戸長岡部円造	明治十二年二月	罫紙	827
799	寄留届　井上浜吉	明治十二年二月	罫紙	828
800	鳥獣職猟御免許御鑑札願　山田正三郎	明治十三年十一月	罫紙	829
801	乗馬営業届　山田忠兵衛	明治十七年二月	罫紙	830
802	営業替願　砥綿市次郎	明治十七年六月	罫紙	831
803	置去り品届　中村武平	明治十六年十月	罫紙	832
804	鳥獣職猟御免許御鑑札願　山田守之助	明治十五年一月	罫紙	833
805	鳥獣職猟御免許御鑑札願　山田正三郎ほか	明治十四年十二月	罫紙	834
806	鳥獣職猟御免許御鑑札願　小山田幸太郎	明治十五年一月	罫紙	835
807	国事犯之者繰替金書上控　通運会社塚本定七	明治十二年十二月	罫紙	836
808	縁組届　中村驥十郎	明治十七年三月	罫紙	837
809	面徭高書上　三小区立明寺村	明治十一年一月	罫紙	838
810	材木御渡奉願上覚　松原兵助	明治六年二月	罫紙	839
811	山家村円通院届　千眼寺	明治六年二月	罫紙	840
812	仮受取　西小田村組長久原孫平	明治十四年五月	罫紙	841
813	地所書上金借用証　高嶋与十郎	明治十四年一月	継紙	842
814	公役當附（西組）	明治五年壬申ノ八月	小横帳	867
815	公役當附（東組）	明治五年申ノ二月改	小横帳	868
816	御村用酒之御通　亀屋五郎平 庄屋満生武四郎様	明治五年申正月吉日	小横帳	869
817	紙御通　山田甚六　満生武四郎様	明治五年申正月吉日	小横帳	870

番号	史料名	年代	形態	史料番号
818	受取帳　満生武四郎　第八大区三小区山家宿	明治十一年寅一月祥日	小横帳	871
819	御笠郡山家村貢米受取 第二十三区之内一小区役場		小横帳	876
820	御宮石壇一件諸記録入		小横帳	877
821	村会議員投票一括	明治十二年五月改選分	小横帳	878
822	村会議員投票用紙一括　山家村	明治十三年九月廿三日	小横帳	879

◆ **司馬先生塾関係書類**

823	司馬先生石碑寸志簿	文久二年戌二月	書冊	843
824	元治元年子春龍窟先生石碑建立勘定簿		長帳	844
825	文政十二丑年以後門弟名附写		長帳	845
826	銭受取覚		長帳	846
827	発起世話人（山田得右衛門ほか）		継紙	847
828	覚（十六人の名前）		一紙	848
829	進上八百五拾文　弥永村久野宇一郎内		包紙	849
830	寸志　甘木松尾屋喜右衛門		包紙	850
831	一正金壱歩弐朱、一預銀壱貫九百八拾文		一紙	851
832	寸志　龍窟先生記録		包紙	852
833	上　龍窟先生へ鬼木要		包紙	853
834	文化三年二月より御手本（実語教）中村熊之助		書冊	854
835	御笠郡邑附　満生慶次郎		書冊	855
836	弘化四年　諸品手本写　満生為次郎		書冊	856
837	文化十三年子十月下旬　婦人教訓		書冊	857
938	天保十五載辰二月十三日　義経含状 満生為次郎		書冊	858
839	義経含状　満生慶次郎		書冊	859
840	［手習本］		書冊	860

番号	史料名	年代	形態	史料番号
◆	**満生武四郎の辞令ほか**			
841	満生彦三郎履歴書	明治六年	書綴	349
842	温泉行日誌　満生武四郎	明治十三年辰五月	小横帳	395
843	諸方出浮之節（袋物・看板・土産入）持参高松尾屋店	明治八年亥四月改	長帳	516
844	家内諸事請拂　満生内	明治四拾年丁未一月吉晨	書綴	518
845	居家普請材木積覚帳	嘉永元年申十月二十三日	長帳	519
846	材木有高調子帳	嘉永元年申十一月十九日	長帳	520
847	覚（材木）	三月十六日改	書綴	521
848	覚（材木）		巻紙	522
849	覚（材木）		折紙	523
850	覚（材木）		巻紙	524
851	覚（材木）		巻紙	525
852	居蔵（瓦）		折紙	526
853	売薬免札（神農丸以下24種）山家村武四郎	嘉永元年八月	一紙	527
854	鑑札（神農丸以下24味）松尾屋武四郎 賛生館役所	明治二年巳三月	継紙	528
855	山家村副戸長満生武四郎　職務差免候事 福岡県	明治六年三月	一紙	529
856	山家村満生武四郎　事務取扱差免候事 第十二大区区長	明治六年四月	一紙	530
857	満生武四郎　売薬屋頭取申談候事 医院出務兼医業取締	明治八年六月	一紙	531
858	山家村農満生武四郎山家学校世話役申付候事 第八大区調所	明治十年三月	一紙	532
859	山家村平民満生武四郎　居村保長申付候事 第八大区調所	明治十年六月	一紙	533
860	山家村満生武四郎小区会議員申付候事 第八大区三小区扱所	明治十年八月	一紙	534
861	山家村戸長満生武四郎　依願免職務　福岡県	明治十四年七月	一紙	535
862	満生武四郎　山家村戸長申付候事　福岡県	明治十四年七月	一紙	536
863	山家村満生武四郎　農学校建築費寄付感謝状 福岡県	明治十四年十一月	一紙	537

番号	史料名	年代	形態	史料番号
864	満生武四郎　任山家村戸長　福岡県少書記官 萩原汎愛奉	明治十六年四月	一紙	538
865	満生伊四郎村会議員当選状　戸長山田甚三郎	明治十七年七月	一紙	539
866	満生武四郎村長助役認可伺、認可 福岡県知事安場保和	明治二十二年五月	罫紙	540
867	満生武四郎衆議院議員選挙投票所立会人 村長都島茂七	明治二十三年六月	一紙	541
868	満生武四郎太宰府神社楼門建築費寄付金 領収証	大正三年四月	一紙	542
869	嘉永六癸丑載仏生月求法日　朝日山薬師尊 一千年廻祭奠志帳　別当日照寺	嘉永六年四月	書冊	778
870	御茶屋地床画図控入		包紙	861－1
871	御茶屋地および下代（須藤 柴田 吉村 高嶋） 屋敷図		継紙	861－2
872	御茶屋地略図		継紙	861－3
873	［坪付三筆］		一紙	861－4
874	［壱反四畝廿九歩］		一紙	861－5
875	午五月十九日居宅指図（松尾屋）		包紙	862－1
876	松尾屋指図（旧）		一紙	862－2
877	松尾屋指図（新）		一紙	862－3
878	松尾屋居宅外観図		一紙	862－4
879	上町木屋材木入高覚帳	天保十三年寅三月四日改之	長帳	863
880	万御通　油屋半平	安政四年巳正月吉日	小横帳	864
881	萬御通　油屋店　松尾屋武四郎様	安政五年午正月吉日	小横帳	865
882	萬御通　松尾武四郎様　油屋店	安政六年未正月吉日	小横帳	866
883	買入帳　松尾屋彦三郎　福岡県第八大区 三小区　御笠郡山家宿	明治十一年～十二年戌 寅～卯一月吉日	小横帳	872
884	入費帳　松尾屋	明治十二年巳卯一月祥日	小横帳	873
885	頼母子講帳　発起儀助	天保九年戌十一月二日 （弘化三年牛閏五月廿日まで）	小横帳	874
886	頼母子講帳　仕立主儀助	天保十二年丑十月改 （弘化四年未ノ十月廿一日まで）	小横帳	875

史料復刻

①文久二年戌二月　司馬先生石碑寸志簿
②元治元年子春龍窟先生石碑建立勘定簿
③文政十二年丑年已後門弟名附写
④銭受取覚
⑤発起世話人

文久二年戌二月　司馬先生石碑寸志簿

司馬先生当齢七拾八歳に被相成、昨年来より言語に老衰之際相見え、今程歩行等も出来兼候により、頻に存生中に石碑被建置度、存意之由に候得共、大造之儀に付、何様不被及自力、不得止事、私共え世話いたし呉候様、頼に相成申候。今程御事多之御半、如何にも御迷惑之御儀には御座候得共、門弟中之頼御助成度、奉存候間、不拘多少、御寸志奉希上候。左候得ば、御蔭を以願望成就仕、於私共も難有仕合奉存候間、前段之訳御汲取被成下、此帳に御姓名、御助成之金高、御書載可被為下候。此段偏に奉願上候。已上

世話人
米屋　吉兵衛
松尾屋市右衛門

二月

一、正金弐朱以上之御方は石碑に御姓名相記し可申候間、宜敷奉希上候。以上

一、金弐百疋　山田得右衛門
一、同　百疋　水城正右衛門
一、同　百疋　壱貫七百文　正右衛門受取
一、同　弐朱　十月十五日夕受取　市右衛門預
一、金五拾疋　○　甘木　綿屋市右衛門
同　壱朱
〆三朱
一、同　百五拾疋　松尾屋市右衛門
一、同　百疋　米屋　才平
一、同　三朱　長崎屋　弥一郎
同　壱朱　しげ

〆　百疋　十二月十九日受取
一、同　百疋　札壱貫五百文　正月二十一日受取
一、同　弐朱　正兵衛受取
一、同　三朱
一、同　三朱　札壱歩　正月二十一日取　正兵衛
一、同　壱朱　市右衛門受取
又　壱朱　正兵衛受取
〆弐朱
一、正金壱朱　札八百五十文
三百五十文　正兵衛受取
一、同　壱朱　札七百五十文　正兵衛受取
一、　弐朱　壱貫文受取　十月十五日受取
一、同　壱朱　子十月十五日受取　市右衛門預
一、同　壱朱
〆弐朱
一、同　弐朱
一、同　三朱　正に〆弐朱　十二月十九日取
一、同　弐朱
一、同　百五拾文
一、同　弐朱　子十二月十九日相渡
一、同　弐朱
一、同　弐朱　札壱貫文受取　正右衛門受取
一、同　壱歩　正弐朱受取　正右衛門受取
一、同　弐歩　札弐歩受取
一、同　壱朱

山田茂右衛門
あしき　弥兵衛
川口屋　順平
同　内
坂田　半平
同　内
○　亀屋　武次郎
○　平島　周蔵
綿屋　利右衛門
飴屋　卯四郎
柳川屋勝右衛門
勝右衛門　内
恕　助
長崎屋　得平
石櫃　魚屋清右衛門
米屋文右衛門娘たか
○　吉のや　貞次
貞蔵
桶工　曽平
山田　甚六
○　山田　孫三郎
上町　久五郎

一
一
一

一、同　壱朱　受取　熊吉
一、三百文　十二月十九日取　正右衛門受取　○上町　善次郎
一、弐百五十文　正月二十一日受取　米正　磯吉
一、弐朱　壱朱　上町　久右衛門
一、正金弐朱　正右衛門受取　同町　利三郎
一、　五拾文　同町　清右衛門
又弐百文　十二月十九日取　大工　和七
一、　三百文　正兵衛引合　○角屋　おきら
一、　弐朱　正弐朱受取　萬屋　喜六　内
一、　弐百文　受取　新町　忠吉
一、金弐朱　受取　○上町　太助
一、同　○吉村　遠内
一、正弐朱　正月二十一日受取　正右衛門受取　弥助
甚作
甚六
一、　百五拾文　受取　正右衛門受取　浦町　貞吉倅梅吉
一、金　五拾疋　下見　重次郎
一、金弐朱　壱貫文　正右衛門受取　車屋　甚三
一、銭百五拾文　新町　忠右衛門　内
一、同百五拾文　生葉屋　源右衛門
一、弐朱　札壱貫文　受取　与七
一、同五拾文　受取　風呂屋　嘉平
一、百文　受取　新町　弥市
一、弐百文　綿屋　七五郎
一、百文　谷町　文助　内
一、百五十文　新家　又作

一、弐百文　正右衛門受取　新家　次平
一、弐百文　正右衛門受取　大また　貞次
一、六百文　正右衛門受取　馬潟　利平
一、三百文　市右衛門引合　大工　孫九郎
一、預銀三百文　十月十五日受取　横町　儀作
一、正金壱朱　十月十五日　竹屋　仁三郎
又　壱朱　受取
〃　弐朱　市右衛門預
一、弐百文　上町　市次
一、　小古野　伊右衛門
一、　同所　藤三郎
一、　同所　忠蔵
一、　同所　孫平
一、　同所　勘次郎
一、札三百文　十二月十九日取　同所　利助
一、三百文　道得　利七
一、金三朱　鶴崎　若狭
一、百五拾文　堤　新蔵
一、　田町　△　次平
一、弐百文　谷町　伊平
一、五百文　新家　仁右衛門
一、金三朱　イケタ　直右衛門
一、正金弐朱　十二月十九日受取　平嶋　守一
一、正金壱朱　市右衛門受取　柴田　藤蔵
一、　萩原　西村与左衛門
当所
一、正金弐朱　札壱貫文　受取　馬市　善次郎　内

一、正金弐朱　福岡　香椎権右衛門
一、弐朱　札壱貫弐百文　受取　福岡　林　虎走
一、金五拾疋　札八百五十文　市右衛門預　阿志岐　吉武玄光　内
大庭村　清助
弥永　久野卯一郎　内
長尾
秋月
一、金弐朱　札八百五十文受取　市右衛門預　二村　武八
同所

同五月十四日　同　弐歩　同人渡　正右衛門出替
十月十四日　同　壱歩弐朱　右同断
五月　同四貫五百文　右同断　米弐斗五升代
壱貫百拾六文　白米半紙ろふそくたはこ代

石工　清蔵

一、施主名入料
壱字に付札四拾文宛
内
十月十六日　八百五拾文　市右衛門より相渡
三貫四百文　得右衛門殿より借用相渡　蔵之前にて渡
札壱両　川口屋より渡に相成
十一月五日　正金弐朱　市右衛門より相渡
代三貫弐百廿五文

十二月四日　建方
一、札壱両壱歩弐朱　石碑持出建方手伝夫共賃銭　正兵衛出
五月　二日
一、同三貫八百文　石碑本谷より持出夫賃銭　正右衛門出
一、弐貫四百五拾文　酒代〆高　川口屋より
正右衛門
五月　二日
一、三貫八百文　竿石持出賃
同月十四日

②松尾屋満生家文書　八四四

元治元年子春龍窟先生石碑建立勘定簿

世話人高田正兵衛満生市右衛門
石工　清蔵

一、石碑　但し表銘年号月日世話人連名迄　代正金五両
内
子二月　六日　正金弐歩弐朱　正兵衛より渡
同三月　朔日　同　壱両　市右衛門より渡
同三月十三日　同　壱両弐歩　同人より渡
同五月廿七日　同　壱歩　同人より渡
同五月廿七日　同　弐歩　同人より渡

一、正金弐歩
十月　四日
一、同壱歩弐朱
十二日
一、同　札壱両
一、四貫五百文　白米弐斗五升代
一、弐貫四百五拾文　清蔵酒代
〆正金三歩弐朱
札弐両弐歩分　五百五十文
内
札壱貫文　惣助分受取
同壱貫七百文　正五郎分
正金弐朱　幸右衛門分
正金弐朱　甚六分
同　壱歩　弥一郎分
同　弐朱　得平分
同　壱朱　貞次分
札　壱貫文　貞蔵分
同　壱貫弐百三十文　守一様分
同　三百文　利助分
同　弐百文　きら分
同　弐百文　卯八分
同　壱貫文　与七分
同　百五十文　梅吉分
正金弐朱　忠吉分
札　壱貫文　善次郎分
同　弐百文　喜助分

正金弐朱　甚作分
札　壱歩　次内様
同　弐百文　平助
同　八百五十文　和七
同　弐百文　弥助
同　弐百文　又七
同　六百文　利平
同　弐百文　次平
〆正　三歩三朱
札　拾壱貫九百三十文
二月七日
壱貫文　甚三

子二月六日
一、正金壱両
三月朔日
一、同　壱両弐歩
三月十三日
一、同　壱歩
五月廿七日
一、同　弐歩
十一月五日
一、同　弐朱
〆正金三両壱歩弐朱
代
戌六月七日

市右衛門

一、　弐貫六百文　　幸三郎渡
戌七月十三日
一、　壱貫七百文　　正兵衛殿渡
同閏八月四日
一、　九百文　　御師匠様渡
一、　百七文　　〃　禄そく代
一、　八百五十文　　清蔵渡
〃六貫百五十七文
内
子十一月
正金壱歩壱朱　受取
札　五貫五百五十文　　本道寺分
同　九貫弐百文　　追々預る分
正金弐朱　　又三郎分
正金三朱　　伊四郎分
正金壱朱　　柴田分
札　壱貫八百五十文　朝日喜平分
　　二村武八分
　三百文　　孫九郎分
　五百文　　甘木　市右衛門分
正金三両壱歩弐朱
札　六貫百五十七文
内
正金弐歩三朱　市右衛門
札　拾七貫四百文　受取分

一、正金弐歩弐朱　　正兵衛
代
一、札壱両壱歩弐朱
内
壱貫文　　清助分
正金壱朱　　武次郎二度目分
壱貫三百文　　取立分　卯四郎・儀作分
壱貫五百文　　俊蔵分
正金三朱　　順平分
壱貫七百文　　半平分
三百五十文　　周蔵分
三百文　　利右衛門分
弐百五十文　　利三郎分
三百文　　喜六分
百五十文　　市次郎分
〃
正金壱歩分
札　六貫八百五十文　　正兵衛受取分
正金壱歩弐朱
札弐貫五百文　出し過

一、壱貫百拾六文　品々買物代　清蔵買物分　　才平　取替
内
四月廿六日
一、壱貫八拾文　　白米六升　幸三郎

右は本谷山弁当持出之節入用

〃

戌十二月分

一、　五貫五百文　　小紋形付壱反　おり色壱反

〃　おり色壱反

右は司馬来太様入用

〃　七貫六百九十六文

内

弐貫五百文　　出し前引

残て

五貫百九十六文

山田得右衛門

一、札三貫四百文

内

③松尾屋満生家文書　八四五

文政十二丑年巳後門弟名附写

△　水城房太郎

弥永卯一郎殿内、　柴田おけい

△　酒井おふじ

飴屋卯四郎　、　戸川　与市

周蔵　母　、　平嶋おせき

馬市善次郎内　芳野おきく

田町喜六内　、　砥綿おしも

萩原与一右衛門　西村喜久次郎

田町次平　、　丸田　次郎

新町得平　、　坂井乙次郎

小山田七五郎　儀作

新ヤ又作　真鍋与曽吉

藤蔵殿　、　柴田　美吉

△　高田　良吉

周平　、　神崎　番次

道徳利七　、　神崎　佐市

うら町平助　、　平川　虎吉

甘木市右衛門　、　満生民次郎

吹田甚兵衛　戸綿　藤吉

池田直右衛門殿　同　金次郎　二

いけだ甚内　同　為吉

△　山内岩太郎

寅年　正五郎　、　水城国太郎

△　○石井貞次郎
下見卯六　田中伊勢吉
春洸老　、柴田孫一郎
山ノ伊平　瀬戸口嘉吉
大また喜助殿　、石川千代吉
馬かた利平　、田野浦松次
良助　○戸川弥曽松　三十
福岡小川殿内　香椎　末吉
朝日組頭喜平　福本　安次
甘木喜右衛門　白木万太郎
馬敷藤三郎　、酒井峯五郎
、近藤おゆき
新町忠右衛門内、砥綿おひな
国分勝右衛門内、戸川おます
恕助　、近藤　仙蔵
下見重次郎　、加嶋　権吉
、入江　孫九　四十
半平内　満生おしけ
新町与七　砥綿　初次
△　石井乙次郎
△　砥綿猪三郎
下淵　、加嶋おひて
卯年　二村才婦林田善作　水崎伝太郎
福岡津田内　香椎恵太郎
△　岩尾　元吉
弥助　神崎　恒吉
△　国友　行三　五十

△　加嶋松五郎
△　神崎おあけ
△　久平弟　砥綿乙五郎
○坂田　亀吉
△　酒井　大助
山田七五郎
△　水城おはる
辰年　上町久五郎　木村　熊次
△　水城助太郎
△　田中　仁吉
才平　、高田覚次郎　六
半平　、満生濱三郎
小古野利助　松原　安次
吉村遠内　内　吉村おきさ
△　古賀福太郎
庄屋得右衛門　山田篤之助
文平　山田辰之助
△　山田吉之助
幸蔵　○山田又太郎
石ひっ清右衛門、坂井　岩吉
野守庄九郎内　藤野おとよ　七
△　水城おとく
当所甚兵衛　砥綿甚太郎
△　満生　熊次
喜作　阿しき宮崎　石川　磯吉
通古賀武七内　砥綿おはな
神崎おはっ

四三嶋卯助内　近藤おやす
安武玄拓内　酒井おいわ
△　水崎おせい
○　砥綿真太郎　八
二村文右衛門内、西岡おみね
桶屋惣助　、芳野松五郎
天山藤右衛門　香椎重次郎
午年　長尾内　、近藤おあさ
△　満生千代吉
谷町半次郎　、外山為次郎
二村金八郎　古賀勝太郎
堤　新蔵　松原市五郎
平嶋守一　、柴田権次郎
上町市次　、川上　初次　九
未年　△　近藤おたき
阿しき　酒井おるい
△　松原猪太郎
小古ノ藤三郎　松原熊次郎
同　忠蔵　松原新太郎
片峯喜平兄　砥綿　瀧次
米屋吉兵衛　、高田専太郎
上町　大助　平川　十吉
△　中村おませ
砥綿おひな　百
△　吉村鵜太郎
順平　、加嶋　啓蔵
秋月　福井氏　、近藤おこと

市右衛門　、満生慶次郎
福岡鷹川林蔵　、大石　延吉
△　砥綿千太郎
△　同　伊三郎
酉　弥一郎　、近藤壮三郎
△　須藤およね
新町貞蔵　、塚本　万吉　十
△　清次　古賀竹次郎
△　柴田　大助
△　酒井大五郎
戸川おます
戌　二村横むき　福本八五郎
小古ノ専右衛門弟　松原岩太郎
柳川屋勝右衛門内　水崎おつい
△　神崎　孫八
若狭　鶴崎　国枝
いせや次作内　、中村おせき　二
順平内　水城おかつ
上町利三郎　、木村　伝十
田町善次郎殿　、外山卯之吉
川口屋正右衛門、水城清五郎
△　水城おまき
小古ノ勘次郎　松原伊勢吉
同　孫平　松原敬次郎
同　伊右衛門　古賀　兵八
竹屋仁三郎　、梶原　増次
△　高　おもと　三

△　柴田おちか
子年　紺屋清右衛門、古賀伊之吉
大庭　清助　、高田政太郎
上町久右衛門　、砥綿　梅吉
上町善次郎　、木村重次郎
阿しき弥兵衛　、近藤末五郎
内ノ弥作　、神崎弥三郎
田町かとや　、田中おきら
谷町文助内　、都崎おいせ
正右衛門内　、水城おさく　四
丑年　次内　、須藤彦一郎
新町　弥市　、入江　百平
小古ノ勘次郎内、砥綿おかよ
二村八五郎弟　福本　亀吉
伊四郎　、満生為次郎
寅　春水　中村　連
西山　武平　同　左登吉
茶屋　甚三　小金丸朔三郎
三牟田幸右衛門、水城　亀吉
卯　新家甚作　、古賀秀太郎　五
才婦　清九郎　、大石　末吉
竹屋仁右衛門　、梶原常五郎
水城　、坂田おもと
孫三郎　山田虎之助
新宅　甚六殿　山田勝之助
浦ノ下徳作　山田　熊八
やしき和七倅　小山田梅次

蔵役嘉作倅　、坂井円太郎
新町貞次　、塚本　為次
博多平嶋門弟　井手　猿作　六
○　上瀧吉三郎
辰　うら町嘉六　、西岡　初次
△　才府茶や　山田政之助
通古賀内　、砥綿きくの
△　水城おみね
新家　卯七　、石川　熊吉
才婦いつみや内料理人　水城辰次郎
幸三郎　倉岡俊之助
二村惣四郎倅　福本　岩吉
○　松尾道太郎　七
△　吉村保次郎
内ノ　俊蔵　、山田市太郎
△　中村おわか
午　利右衛門　、近藤　門次
上町　和七　、神崎　和助
秋月魚屋内　、外山おとき
谷町　利七娘　西岡おしか
新町　忠吉殿　、砥綿峯次郎
上町　孫七妹　、神崎おたつ
未　浦の下甚六内、水城おはま　九
大工徳七　、山内　国八
馬潟　利作　○　村里千代吉
水車　甚三　、神崎福次郎
新町　周蔵　、平嶋　鶴吉

亀屋　武次郎　、酒井敬次郎
申　新や　次平　、石川　長吉
古賀福次郎
新や　甚六　、古賀　曽吉
二村喜右衛門存
白木芳太郎
右同
白木　紋蔵　百
新町文右衛門娘、井手おたか
松尾や又三郎　、満生福太郎
本
平嶋芳太郎
同苗与曽平
同　貞八
稗田幾太郎
稗田おかめ
平嶋　寿吉
稗田乙次郎
平嶋市太郎　十
平嶋源太郎
同　松三郎
同　竹次郎
平嶋　岩吉
平嶋　房吉
、真鍋　米吉
稗田　常吉
平嶋お千代
同　おさき
平嶋おはつ　十
、木村　熊吉

△
油須原
谷　八十吉
谷　繁吉
谷　馬吉
平嶋八百吉
同　伊之吉
同　おまつ
日永田政吉
同　又太郎　二
同　長太郎
町
、高田おしん
香薗
日永田豊三郎
同
平嶋　瀧次
平嶋おふゆ
平嶋常次郎
稗田為次郎
同　亀次郎
同　重吉
平嶋　丈吉　三
同　森吉
谷　専太郎
和田半次郎
平山　富江
町
、木村　磯吉
、太田　末吉
、山田玄太郎
、近藤おしけ
満生おつね

、都嶋七五郎
、石井卯之助
、田中　末吉　四
、外山　栄吉
、徳永猪太郎
、宮崎　梅吉

一、四百五十文　綿利
一、五十文　おきらどの
一、百五十文　新町忠右衛門殿
一、百五十文　生葉や源右衛門殿
一、五十文　ふろや嘉平殿
一、百文　新町弥市
〆七貫五百五十文
一、五百文　甘木松尾屋喜右衛門
一、札八百五十文　久野卯一郎　内
一、同三百文　鬼木　要
一、五貫五百五十文　本道寺分
十一月
一、正金壱歩壱朱　此内　但　弐朱　竹屋仁三郎分
　　弐朱　いせ屋次作分
　　壱朱　柳川屋分

二月六日夕
一、三十文　禄そく壱丁
二月八日夕
一、弐十文　同　壱丁
同　九日夕
一、三十文　同　壱丁
同　十日夕
一、廿七文　油屋　同　壱丁
六月七日
一、弐貫六百文　御師匠様渡　夫幸三郎渡
七月十三日
一、壱貫七百文　吉兵衛殿渡

④松尾屋満生家文書　八四六

銭受取覚

一、四百文　勝右衛門殿
一、五百文　平嶋修造殿
一、三貫四百文　山田孫三郎殿
一、四百文　善次郎殿
一、四百文　清右衛門殿
一、二百文　上町左助殿
一、八百五十文　吉村氏
一、四百五十文　亀屋

閏八月四日
一、　九百文　　御師匠様渡　無理に相談被致候間無拠相渡
子二月六日
一、正金壱両　　石工　清蔵渡
　　代拾貫文
三月朔日
一、同　壱両弐歩　　同人　渡
　　此外三百五十文は川口屋より借入置候間利分相渡
三月十三日
一、同　壱歩　　同人　渡
五月廿七日
一、同　弐歩　　同人　渡

⑤松尾屋満生家文書　八四七

発起世話人

発起世話人	山田得右衛門
	高田　正兵衛
	満生市右衛門
	水城正右衛門

満生家文書目録（一）

筑紫野市文化財調査報告書第54集

発行日　平成９年３月31日
発行者　筑紫野市教育委員会
　　筑紫野市大字二日市753-１
印刷所　株式会社 川島弘文社
　　福岡市東区箱崎ふ頭６－６－41